

私たちが創る「地域力を育む生涯学習社会」 活動のてびき





目次

■ 1 見つめてみよう高崎のまち	1
■ 2 地域力について考えてみよう～生涯学習・公民館の役割～	2
■ 3 地域力を支える「コーディネーター」	3
■ 4 プロセスをイメージしてみよう～公民館による地域支援～	4
■ 5 みんなでふり返りをしよう	6
■ 6 事例紹介～活動のポイントに学ぼう～	8
■ 巻末 資料にみる高崎の生涯学習	19

1 見つめてみよう高崎のまち

高崎の地域づくりは小学校区域が基本

高崎市は、小学校通学区域(以下、「小学校区」)ごとに条例に基づく公民館を配置してきました。この条例により設置された公民館を地区公民館と呼んでいます。この活動のてびきにおける公民館とは、地区公民館のことを指しています。住民の身近なところに地域づくりの活動拠点でもある公民館があり、小学校と地域・地区公民館との連携がとりやすいなどの立地性を持っていることが特徴です。

また従来から高崎市は学校給食の自校方式を進めてきました。各学校・幼稚園がそれぞれの調理室と専属の職員、栄養士を配置し給食を提供しています。これによって、地域の食材を生かした個性ある健康・安全で、おいしい給食の実現が可能となっています。

そして各学校には学校保健委員会があります。児童生徒・学校教職員、PTAの各代表、学校医、学校歯科医、学校薬剤師などが参加し、年間を通して会議を開き、学校の健康課題を協議しています。最近は地域の方々も参加する拡大学校保健委員会が開催され、学校と地域を結ぶ架け橋として重要な役割を担っています。

このような地域特性を備える高崎だからこそ、新・高崎生涯学習推進計画でも、この活動のてびきでも小学校区を地域の基礎的な単位としています。

しかし、現状では学校と地域、また公民館の連携は十分ではなく、公民館の可能性が活かし切れていない状況があります。これまで高崎市が形作ってきた地域の特性を、地域力を育む生涯学習社会の創造に結びつける具体的方策が求められています。

400館に及ぶ町内公民館とその自立的運営

市内には、中央公民館、43の公民館のほかに、町内公民館が388館(平成21年6月1日現在)もあり、町内会単位での住民活動を支えています。町内公民館は、住民による自主運営のもと、地域文化と歴史の継承など、多様な運営と活動が展開されています。新たな地域事業やイベントの企画立案に住民の参加を促したり、若い世代の知恵と工夫を取り入れたりするなど先駆的な活動が見られます。

しかし、こうした住民主体による自立的な施設運営がある一方で、いわゆる貸館にとどまっているケースもあります。住民が集い、話し合い、交流・活動する住民活動の拠り所としてさらに活用していくことが求められます。

豊富な市民の活動と横のつながり

市内では、各種団体、NPO、ボランティア団体、町内会・行政区や公民館での活動など、多分野にわたって豊富な市民の活動が展開されています。大学等の高等教育機関、企業の社会貢献活動なども多く存在します。市町村合併後の新しい高崎市には、倉渕、箕郷、群馬、新町、榛名及び吉井地域それぞれに個性ある豊かな地域資源があり、全市としての活力は一層高まりをみせています。

他方で、少子高齢時代の中では本市においても地域活動の担い手不足や活動のマンネリ化など、課題も見え始めています。市民の活動が持続可能なものとなるためには、人々の知恵や行動力をつなぐ取り組みが求められます。同じ活動分野はもとより他分野との横断的な連携、市内での地域間交流、行政とNPO、各種団体との協働など、様々な関係づくりが課題です。点から線へ、線から面へと広がる横のつながりを実現していくことが、これからの高崎市の地域力を高める重要な鍵となります。

2 地域力について考えてみよう～生涯学習・公民館の役割～

新・高崎市生涯学習推進計画の基本理念にある「地域力」とは、私たちの身のまわりにある地域の課題や魅力について住民がともに話し合い、そして主体的・自立的に解決・創造していくことを意味しています。

私たちの暮らしを見つめてみると、少子高齢化、環境問題、地震などの自然災害、子育てなど、これまで比較的经验することのなかった課題に直面しています。実は、これらの中には地域の力でなければ解決できないものも多くあることも事実です。その礎として、例えばご近所での助け合い、世代間の交流、団体間の横のつながりなど地域の支えあう関係づくりや生涯学習活動が求められています。

地域力を育むために公民館にはどんな役割が求められるのでしょうか。地域(校区・行政区・町内会)と公民館にはどんな関係があるのでしょうか。地域づくり＝公民館ではなく、それぞれの役割があるはずです。

公民館の学習活動を通して、人々は課題解決の力量(知識・技術)を高め、地域の外の団体・人材とのつながり、そして仲間づくりや人と人との関係を育んでいきます。このことは、地域としての課題解決や住民相互の話し合い、円滑な人間関係の基礎となります。公民館の学習活動は、地域だけでは困難なひとづくりや地域内外の団体間の連携を育みながら地域力を下支えしていくのです。私たちは、生涯学習活動を通して学んだことを地域に活かし、団体や人材をつなぐことによって、地域力を育む生涯学習社会を創ることができるのです。



3 地域力を支える「コーディネーター」

新・高崎市生涯学習推進計画では、地域力を支えるコーディネーターとして、区長・町内公民館長・民生児童委員・環境保健委員・生涯学習推進員・体育指導委員・公民館長及び公民館主事などの社会教育関係施設職員の皆さんを紹介していますが、これに限らず誰にでもコーディネーターになる可能性はあるのです。

それでは、具体的にどんな役割があるのでしょうか。実際に市内で地域力を支えている皆さんの声を聞いてみましょう。

区長Aさん 私は明るく、住み良い、心のふれあいの持てる地域を念頭に置きながら、様々な事業に取り組んでいます。こういった地域を創るためには、日頃から地域住民同士の交流の場づくり、意思疎通を図れる環境づくりが大切じゃないかと考えます。たとえば、地域での自主防犯パトロールは地域の各種の団体のつなぎの機会となっています。**区長の立場はつなぎ役**だと思っています。そして住民自治の基盤となるのが私たちの公民館であり、ここを拠点に色々な事業を通じて地域づくりができると考えています。

また、かねてより私は**地域づくりの原点は子どもの健全育成**にあると考えています。若いうちから社会参加意識を培っていくことで大人になってから地域を支える人材に成長するでしょう。

だからこそ、私の地域では常に世代の交流を図りながら様々な事業を行っていますが、この点も地域の子どもの健全育成にとって大きな役割を果たしていると思いますよ。

公民館長Bさん コーディネーターとしての心構えを考えると、いかに地域の人材を発掘し、活かすことができるかにあると思います。私自身、**人材は「人財」**であると思っています。

私は、**地域にいる有能な人材は手を引き・背中を押すことにより発掘でき、能力を発揮してくれる**との信念があります。やっぱり、優秀な人材といっても自分から名乗り出て、地域に参加していくには勇気や度胸がいることであり、名乗り出ることを期待して待つだけではダメだと思いますよ。コーディネーターとしていかに手を引き・背中を押してあげるかが大切でしょう。

また事業を企画するときは、新規の地域の参加者が広がるよう、公民館以外の地域の方々（区長さんや生涯学習推進員さんなど）の英知を最大限に集めることにポイントを置きます。そうすることで、地域の団体・組織（人材）の横断的な連携が生まれ、地域の総合力を結集できると同時に、組織の育成面での相乗効果も期待できるんです。

生涯学習推進員Cさん 私は、高崎市生涯学習都市宣言の中で提唱している“いつでも、どこでも、だれでも”の実現を念頭において、生涯学習によるまちづくりをめざした活動を心がけていますね。

コーディネーターである生涯学習推進員にとって、私自身が大事だと感じていることは、

- ① 地域の学習活動を把握し、充実・発展につなげていくこと、
- ② 地域の学習ニーズを把握して、適切な対応を考えること、
- ③ 地域にいる人材、学習の題材となるものを活用すること、
- ④ 会議等を通じて、相互の情報交換を深め、あわせて有効な情報活用を考えること、
- ⑤ 地域力を育むため、**ほかのコーディネーターの皆さんとの連絡・調整を図ること**、ですね。

公民館主事Dさん 公民館は「地域の人が集まる場所」です。公民館に地域の人が集まるために、私が**普段から心がけていることは「徹底的に地域にこだわる」**ことです。地域にある「人」や「もの」を把握して、その価値を活かすことが地域の活性化につながっていると思います。

それに、公民館を支えるのは、実は区長さんをはじめとする地域の有志なんですね。こうした個人と個人が繋がって、それが大きな地域の力になっていくのではないのでしょうか。

私が勤務する公民館では、地域の人々が抱える課題について話し合い、解決策を模索しています。より良い地域を創るためには、お互いを理解しあい、連携しながら問題を解決していくことが必要です。それを実践するために、公民館主事に求められるのは、他の機関と連携できる「コーディネート能力」だと思いますね。

4 プロセスをイメージしてみよう～公民館による地域支援～

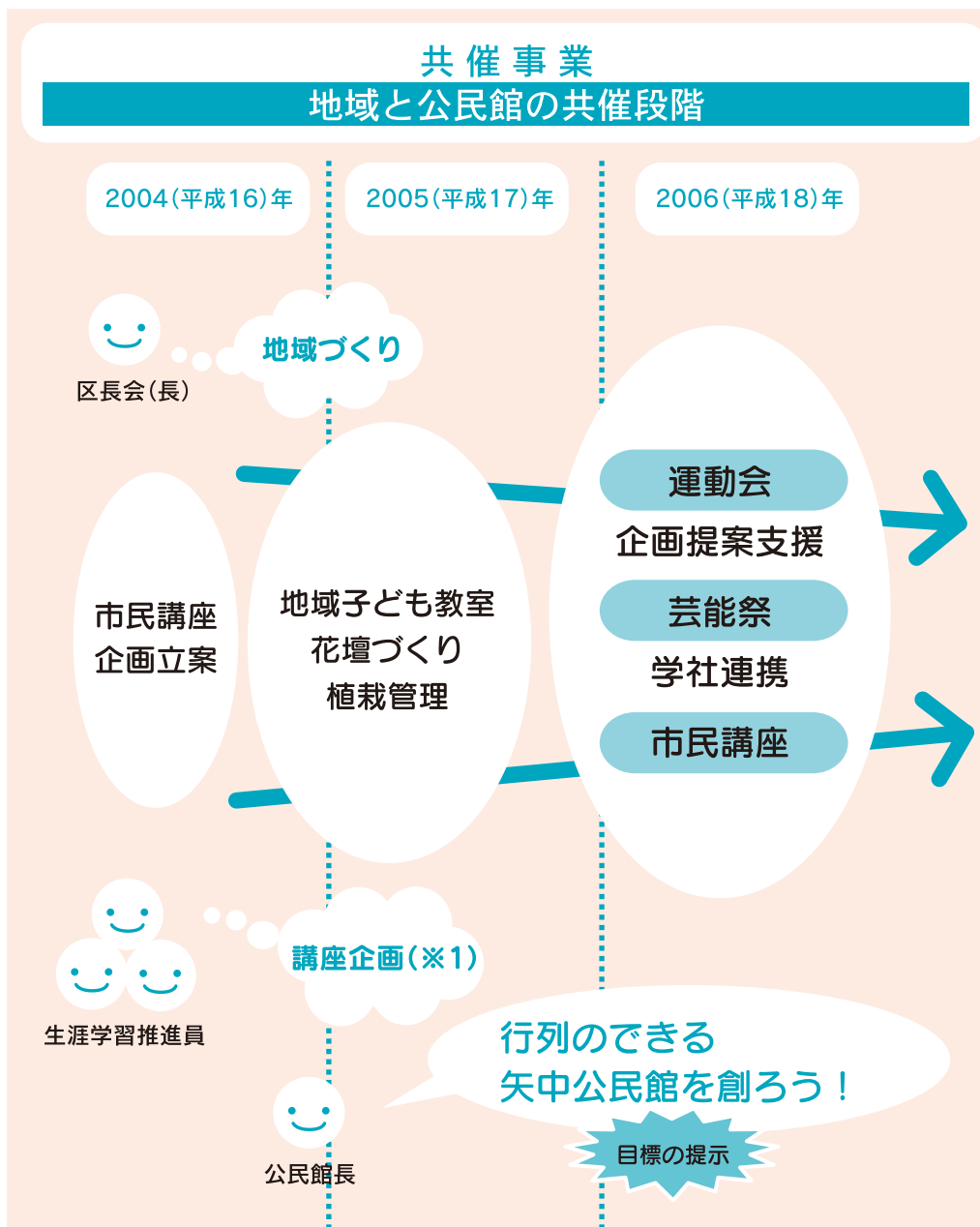
矢中地区の地域づくり

高崎市矢中地区では、住民主体の地域づくり団体「地域づくり活動協議会」を公民館が支援しています。ここまでに至るプロセスを見ていきましょう。

①2004(平成16)年の市民講座から生涯学習推進員が企画にあたっています。区長、生涯学習推進員、公民館(館長・主事)がそれぞれの役割を自覚しながら取り組みを進めてきました。

②地域づくりの転機となるのが2007(平成19)年春の、区長、生涯学習推進員、公民館長の三者合同のテーブルの設置です。ここから「地域」と「公民館」との役割分担が始まります。あくまでも地域づくりの主体は「地域」、「公民館」はサポート役ということですが、こうした両者の距離感(公民館のかかわり方)が重要となります。

③協議会では、住民総参加の話し合い(ワークショップ)を重ね、地域の課題や魅力を明らかにしながら、3つのプロジェクト設置を皮切りに、多様な事業活動が現在まで展開しています。



ポイント①



地域に対する公民館の役割の明確化

従来、共催事業として両者の関係は曖昧(もしくは公民館への依存)でしたが、公民館が地域事業支援コンセプトのもと、地域の主体性を確立することを重視しました。

ポイント②



コーディネーターの目標の自覚・提示

公民館長は「行列のできる公民館」を目標として、従来の利用者にとどまらない住民の参加の広がりを地域に発信しています。

【補足】

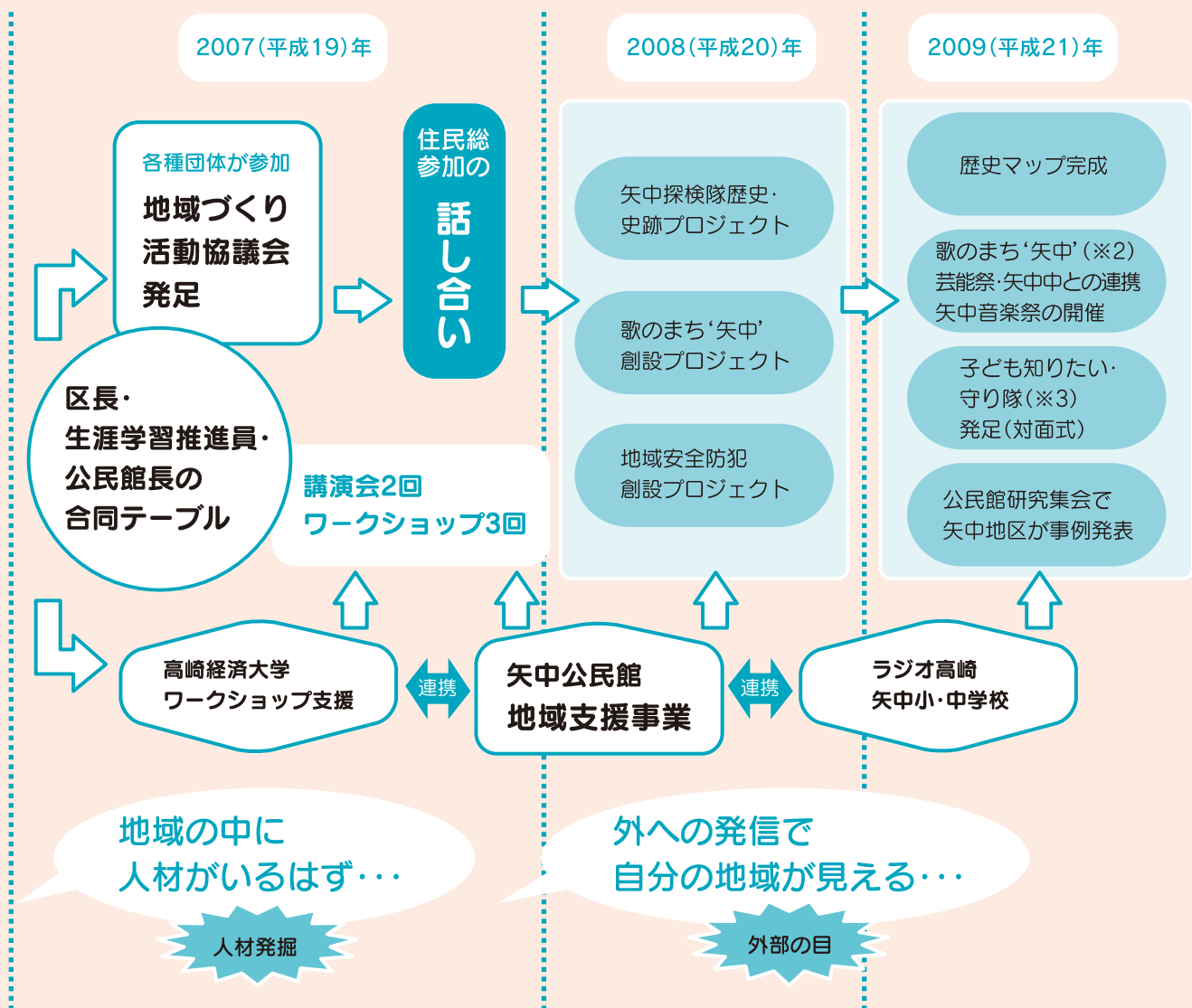
(※1)生涯学習推進員の活動は2004(平成16)年の市民講座の企画への参加から具体的に確立してきます。料理教室などの企画には食生活改善推進員なども加わっています。

芸能祭、文化祭、地域活性化等の地域の事業は区長が責任分担し、実務は生涯学習推進員が事業別部会長として活躍しています。

支援事業

地域と公民館の分離段階

地域づくりの展開段階



ポイント3

地域内外の人材・機関・団体の活用

地域の内外の資源(人材、学校、大学、ラジオ、行政等)を発掘、活用することで、新たなノウハウや地元住民では得られないよそ者の視点を取り入れています。

ポイント4

住民総参加での話し合いを起点に

当初段階から企画が決定しているのではなく、多様な住民の参加のもと、地域課題や魅力を共有しながら、地域に必要な事業を見出す丹念な話し合いを重視しています。

【補足】

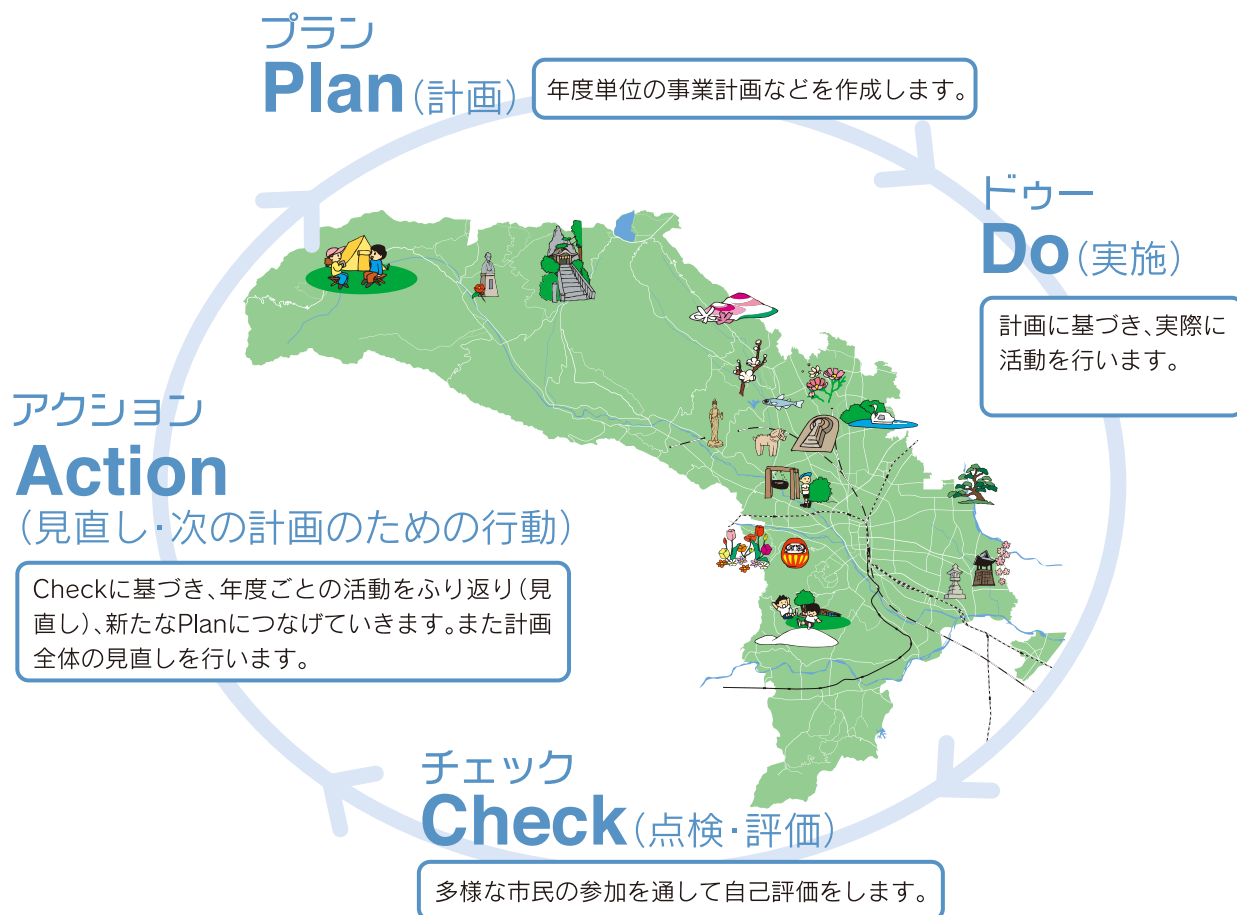
(※2) 歌のまち‘矢中’は公民館利用団体のサークルとは異なり、矢中地域づくり活動協議会の直轄事業です。登録者数90名(約3分の1は男性)。月2回の例会を実施しています。

(※3) 子ども知りたい・守り隊は、手上げ方式の見守り役です。現在登録者数は100名ほどです。町内会で実施しているパトロール(年数回、各町内1回数名)とは異なるものです。

5 みんなでふり返りをしよう

それぞれの事業・活動を通じたみんなの成果が地域で集められ、それが地域力を映し出します。集められた成果を、さらに地域の人々でふり返りをすることが大切です。

実際のふり返しでは、地域の人々の力の入れ方に偏りはないか、ここは強いが、ここは弱い、いま取り組まれているけれども、こんな課題に取り組む必要があるということも出てきます。そのふり返りの場として、たとえば公民館運営推進委員会などを活用することが望まれます。



みんなでふり返し



ふり返りのためのシート

みんなでの話し合い、ふり返しを通して、翌年の活動につないでいきましょう。

ここまでが1つの事業・活動です。それが積み重なっていく様子を、P(Plan:計画)D(Do:実施)C(Check:点検・評価)A(Action:見直し・次の計画のための行動)サイクルが回るといいます。

1. 事業・活動をやりっぱなしにしないで、みんなで成果・課題を共有しましょう

■事業・活動をするのに、目的や目標をはっきりと立て、事業・活動が終わった段階で、

- (1) 出来たこと(成果)と出来なかったこと(課題)をみんなで点検しましょう。
- (2) あわせて出来たことのポイントは何であったかを確認しましょう。
- (3) 出来なかったことをどう解決するか、さらに新たに取り組みたいことはないか話し合いましょう。

2. ふり返りの方法

①記録に残そう

1枚の紙でも良いので、事業・活動の経過や成果、課題、来年への改善案を記録としてまとめましょう。写真やその他の成果品も加えると、さらに良いでしょう。

みんなの記録、点検としてつなぐため、仕上がったら、参加者全員に配りましょう。

②多くの人の参加を募ろう

中心メンバーだけで形式的にふり返るのではなく、参加をしたできるだけ多くの人でふり返りをしましょう。

③できるだけ数字を使おう

参加者の数や内訳、要した経費とその内訳、経費や物品の調達の方法と内訳などは、できるだけ正確に数字で残していきましょう。数値の変化を見ることは、事業・活動を点検・評価するときに大いに役立ちます。特に、目標・予算に対しての成果・決算の点検はとても大切です。

数字は事実を語りますが、無理をして大きな数字を入れないでください。「正確に」が、長続きするポイントです。

④やめる勇気も必要

事業完了や達成不能の場合、それを明確に記録して、共通理解を図ることも大切です。

何年も続いてきたから、今年も何となくやるのは禁物です。「目的・目標を達成したから完了」「理想は高いが今は現実的に考えて無理だからやめる」という判断を地域みんなが共有することは価値のあることです。

「話し合ってやめる」勇気は、新たな地域づくりの力となります。

3. 地域の評価の重なりを示す「高崎の地域力」

各地域でのふり返りの内容は、高崎市生涯学習推進本部・生涯学習推進協議会に集められます。全市の進行状況や課題を見渡しながら、新・高崎市生涯学習推進計画の見直し、あるいはこの活動のてびきの更新などが行われます。

新・高崎市生涯学習推進計画の進行管理は、それぞれの地域の歩みを大切にしながら徹底した住民参加型で進められます。その意味でも、各地域での個々の事業活動のふり返り・点検が大切です。

6 事例紹介～活動のポイントに学ぼう～

榛名山麓塾



名勝史跡を巡る塾の参加者

経緯

榛名公民館の榛名山麓塾の取り組みは合併を機に、榛名地域の特色を十分に発揮する運営を目指して開設されました。

事業の目的は、地域に題材を求め、榛名地域の自然、風俗、名勝史跡、食文化等を再発見し、掘り起こす過程を通して、受講生が楽しみながら榛名地域の活性化と文化の向上に寄与することを目的としています。

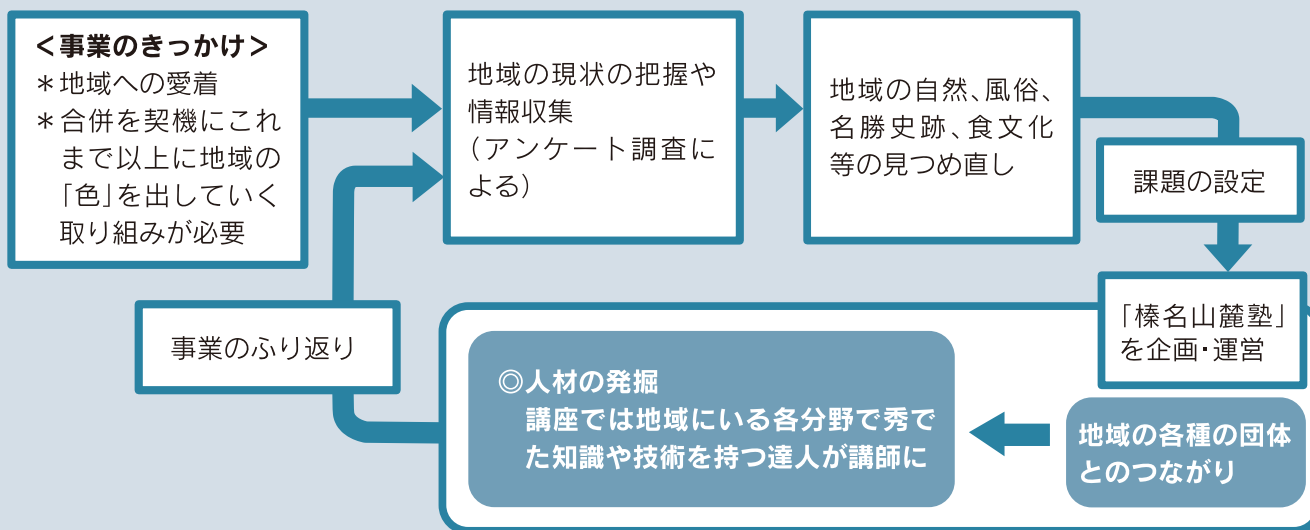
【榛名山麓塾の内容(抜粋)】

- (1)「地域の名勝史跡掘り起こし事業」：榛名地域の室田、里見、久留馬、榛名神社、榛名湖を探訪します。
- (2)「郷土料理の伝統事業」：十五夜だんご、そば打ち、郷土料理、生玉こんにゃく、手作り味噌などを作ります。
- (3)「地域の自然利活用事業」：農政事務所職員を講師に迎え新鮮で安全な野菜づくりの講義と実習や親子の参加による「榛名を旅する蝶～アサギマダラ～」の調査・観察などを行います。
- (4)「心を結ぶ人の輪交流事業」：災害から家族を守るための備えについて学習します。
- (5)「熟年講座」：幅広い教養を高める事業を行います。

ポイント①



地域への愛着としっかりとした地域の見つめ直し



ポイント②



地域の人材の発掘

2007(平成19)年に地域の区長さんを通じて各分野で秀でた知識や技術を持つ人材を発掘するためのアンケート調査を実施しました。同様にして地域で残したい史跡、文化財、伝承芸能、景観などについてもアンケート調査を行い、しっかりと事業の中に反映させています。なお今後ともアンケートを通じて人材の発掘を行う予定です。

そして、講座での講師を通じて、地域の方々が様々な分野で地域の達人として活躍する契機となっています。あわせて、公民館では講座参加者の有志によるサークル化に向けた支援も行っています。

道祖神の里めぐり

経緯

1982(昭和57)年、当時の倉渕村教育委員会はかねてより調査・研究を進めていた道祖神を記録保存するために、村内77箇所114体の写真集を発行。その後、石仏ブームが起こって写真集は重版され、テレビで紹介されることで、倉渕の道祖神は世に知られるようになりました。

そして2001(平成13)年、国民文化祭での「道祖神フェスティバル」をきっかけに、記録保存から一歩進んだ事業展開が始まりました。

記録保存からの事業展開

道祖神フェスティバルでシンポジウム、どんどん焼き体験、道祖神の里めぐり、交流会、全国道祖神パネル展などのプログラムを展開。倉渕らしいふんわりとした温かみのある素朴なテーマが功を奏す。

⇒倉渕村始まって以来の参加者が訪れ、また、中学生による道祖神の説明が好評となり、大成功に終わりました。



参加者から感想を伺うハガキには、たくさんの勇気づけられる言葉が書かれていた。
⇒1回限りのイベントでなく、翌年度から事業展開していく上で大きな後押しになる。

道祖神の里めぐりのはじまりへ

公民館が中心となり、「道祖神の里めぐり」と名称を変え、翌年度から毎年継続することになる。

⇒地域内を7コースに分け、参加者が毎年、無理なく参加できるよう配慮。

また中学生による解説ボランティアを継続することで、参加者と世代や地域を超えた交流、地域の歴史・民俗・文化を学ぶ総合的な学習の場の提供など、地域づくりへの足がかりになりました。

ポイント1



中学生による解説ボランティア



中学生の解説による道祖神の里めぐり

毎年、11月初旬の日曜日、倉渕中学校の生徒が10人前後の参加者を引率し、公民館が作成した、『道祖神の里めぐり隠密マニュアル』にもとづいて、道祖神のほか文化財・地名の話・伝説などを説明・解説しながらコースを散策します。

参加者は年々増加し、2008(平成20)年度は350人超の参加がありましたが、会場等の都合で申込者全員の受け入れができないことが今後の課題の一つでもあります。

また、公民館に届いた参加者からのお礼の手紙を中学校に届けると、また来年も会いたいとボランティアを継続する生徒もあり、中学生と参加者の交流が広がっています。

さらに、地域にもこの事業が浸透してきた影響で、毎年10月に実施する道路愛護の環境美化活動以外にも、日頃から道祖神の周辺を清掃するなど、住民の意識に変化が見られ、おもてなしの心が根付いてきているようです。

ポイント2



学校、地域、公民館の連携

■各種団体・地域住民のサポート体制
⇒毎年度の継続で蓄積された理解と信頼

■住民宅の解放
⇒トイレ、休憩場所などの提供

■解説ボランティアの募集
公民館作成のチラシに、先生作成のチラシを添えて声かけ
⇒全校生徒の6割強の応募
■総合的な学習としての取り組み⇒学校年間行事に位置づけ

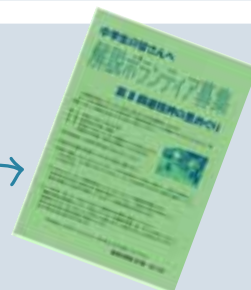
倉渕中学校の全面的な協力

地域の全面的な協力

道祖神の里めぐり

倉渕公民館の縁の下での力持ちとしての支援

■リピーターの確保
⇒参加者募集は、前年度参加者への呼びかけ
■下見の徹底⇒協力団体と連携しながら、住民へのお願い



地区公民館と美術館がつながった事業

経緯

公民館第1ブロックの4公民館(南・東・北・城址)とタワー美術館連携事業は、公民館職員と美術館職員のコミュニケーションから始まり、5回の関係者会議を重ねスタートしました。

この事業が動き出した背景として次の点が挙げられます。

- ①タワー美術館では2009(平成21)年度の企画展として「旧高崎藩主・安藤家の至宝」が決まったが、4館の地域に関連した展示・講座であったこと。
- ②江戸時代の高崎に学び未来を模索することは、それぞれの公民館の課題でもあるが、個々の公民館単独で実施するよりも連携して事業を実施した方が高い教育的効果が考えられたこと。

【事業の主な内容】

- 1回目 文化史跡についての学習会を開催(各公民館の講師:高崎経済大学名誉教授・元高崎市史編纂委員会調査員・高崎市文化財調査委員・高崎観光ガイドの会長に依頼)
※講師は原則として地域内に在住の講師を選定
- 2回目 史跡めぐりの開催(各公民館ごとのコースや内容で実施)
- 3回目 タワー美術館の「香る大名文化～旧高崎藩主、安藤家の至宝」を鑑賞

ポイント①



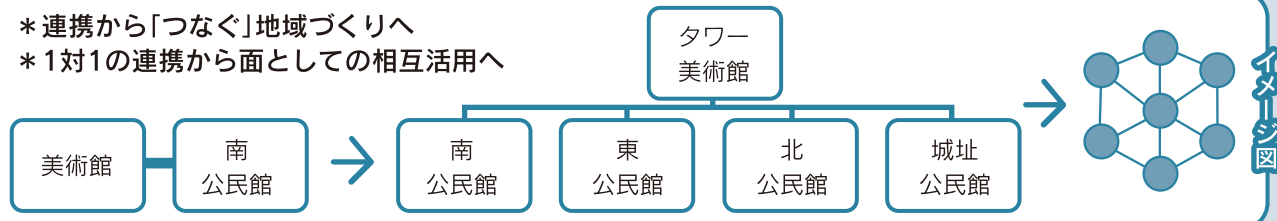
施設職員間の話し合いと専門性の相互活用

実は前段階がありました。南公民館では2007(平成19)年度から隣り合う美術館と連携して、相互協力のもとに公民館事業を実施していました。連携のメリットはお互いの施設機能が有効に利用できたことです。

そこから、複数の異なる文化・教育施設が面として相互に活用しあう形に進みました。

しかし、近いから、課題が共通するからの理由だけで連携や共同した事業が成り立つわけではありません。5つの施設の職員がコミュニケーションを大切にして話し合いを重ね、お互いの専門性を尊重し相互活用することに積極的に取り組んだことで初めて、この事業が成り立ったことを忘れてはなりません。

- *連携から「つなぐ」地域づくりへ
- *1対1の連携から面としての相互活用へ



ポイント②



地域人材を講師とした学習プログラム

講師は原則として地域内に在住の方を選定しました。そのことが、参加者に一層の親近感をもたらしたようです。

また、文化史跡めぐりなど参加者の事故防止など安全のため、各公民館で職員相互の応援体制を配備しましたが、それだけでは不十分で、運営に地域住民がボランティアとして協力してくれて、初めて成り立ったこともポイントとして挙げられます。

今後も、課題を共有できると考えた場合、話し合いに十分な時間をかけ、当初から一層の住民参加を募る形で、住民ニーズにかなう事業展開を図っていききたいものです。



高崎城の跡地を見学

六郷地区の郷土史散策

経緯

2007(平成19)年秋、北部公民館長が長野堰の歴史に関する本『長野堰の水と光』を出版し、地域の歴史に対する関心が高まりました。同年秋から以下のような事業が積み重ねられ、地域づくり活動が発展的に継続されています。

・2007(平成19)年11月～12月

北部公民館主催「高崎の歴史と六郷地区史展」

地域の各時代の地図を中心とした展示会。

県内各地から254人の方が閲覧に来訪。

期間中は、区長、生涯学習推進員、公民館図書ボランティアなどが交代で受付を担当。

なお、初日には記念講演会「六郷地区あれこれ」を開催。



高崎の歴史と六郷地区史展

・2008(平成20)年4月

地域に22体ある道祖神の配置などがわかる『六郷・北部校区の史跡と公共施設マップ』を作成、全戸配布。

・2008(平成20)年9月

北部公民館長が六郷地区の石碑の解説書『郷土史アルバム』を出版、リフレッシュセミナーで解説。



六郷・北部校区の史跡と公共施設マップ

・『六郷・北部校区の史跡と公共施設マップ』を使用した史跡めぐり

六郷地区(2008(平成20)年11月)と北部地区(2009(平成21)年4月)

・2009(平成21)年6月

他の社会教育施設との連携事業として歴史民俗資料館の記念事業「高崎五万石騒動」の一環で史跡めぐり(小埴地区編)を実施。

ポイント1



地域の歴史遺産に見える形に



史跡めぐり(円性寺)

校区内に散在する長野堰や碑などの史跡、神社、お寺に解説の光を当てて郷土の歴史の中でどのような経過を経て現在に至っているかを丹念に調べ、本やマップ、講演会などで見える形にすることで、地域の人たちが再認識するきっかけとなりました。

目に見え、手で触って確認できること、自ら文字を読めることが、自分たちの宝であるとの意識を高め、受付をはじめ展示会を自分たちの手で開催することになり、地域の人々の結びつきを一層強める結果となりました。

ポイント2



六郷校区と北部校区の連携

北部校区は六郷校区から分かれたという経緯もあり、両校区の連携は1977(昭和52)年の北部校区の誕生以来現在まで続いています。

①『六郷・北部校区の史跡と公共施設マップ』(2008(平成20)年)

六郷地区の区長さんに地域の史跡や公共施設の情報を提供していただき両校区が協力して作成しました。

②芸能祭、町民運動会の共同開催

③高崎経済大学の共同見学会の開催(2009(平成21)年)

箕郷町白川辻はたるの会の活動

経緯



竹炭で川をきれいに大作戦

箕郷町白川辻はたるの会は、1994(平成6)年2月、自然環境保護を目的とし、昔のようにはたるが豊かに育つ自然環境を取り戻すことをねらいとして発足しました。

まず、はたるを飼育することから始め、現在では竹炭による河川の水質浄化などの活動に取り組んでいます。

5年間を要して造成したはたるの里自然公園は全て会員手作りによるもので、噴水、東屋、遊具が設置されています。また公園内の水路はカワニナの養殖水路で、現在では6月中旬頃からはたるが飛翔するようになっていきます。

1999(平成11年)から開始した竹炭による水質浄化作戦も徐々に成果を見せ、2006(平成18)年には小堀川ウォーキングロードの整備も進められ、3年がかりで完成させました。

あわせて、地域の活性化をめざして、子どもたちの将来につながる地域づくり運動が展開されています。

ポイント1



地域への愛着～変わる水環境への^{きく}危機と行動～

1960年代後半以降の農薬の使用、人口増による河川への生活排水の流入量の増加、^{ほじょう}圃場整備による河川岸のコンクリート化などによって悪化した水環境を目の当たりにして、「はたるの生育する環境は人にも住みよい環境である」と、かつての地域を取り戻そう、自ら住む地域は自分たちで守ろうという機運が白川地域において高まる中で、はたるの会の発足に至り、同じ年に箕郷町辻集会所裏にある休耕田にはたるの飼育場である用水路施設が完成しました。

このように、地域への愛着と危機感を計画的、段階的に事業に結び付けて、はたるが棲むことができる環境づくり、遊び心を持った地域づくりを展開しています。

①はたるの幼虫が食べるカワニナの飼育、養殖施設を竣工させ積極的に育成

はたるの里自然公園の造成へ発展し、子どもから大人までが集う場になる。

②竹炭で川をきれいに大作戦

自分たちで炭焼き窯を構築し、焼き出した竹炭を河川や家庭用雑排水枡に敷設。

みんなとともに元気でにぎやかな地域づくり

③ウォーキングロードの整備

3年をかけて荒れ放題の小堀川堤防を整備し、全長1.3 kmにわたる散策ロードを完成。

④花いっぱい運動や動植物・水質調査

子ども会と連携して河川堤防に花を植栽。調査は年2回実施する大切な活動。

ポイント2



活動に喜びを感じながら～継続する活動へ～

環境変化への危機感と地域への愛着、計画的な事業展開を支えているのは、「みんなとともに元気でにぎやかな地域づくり」を掲げ、老若男女がそれぞれ無理をせず、童心のような遊び心を持って、楽しみながらの活動に参加できる工夫をしている点にあります。

皆さんは、いつも活動に喜びを感じながら参加しています。



はたるの里公園まつり

かみつけの里博物館「王の儀式」

経緯



ヤマトの使いによる鏡の下賜

かみつけの里博物館のはにわ祭は、2004(平成16)年にかねてから実施していた古代米の収穫祭を発展させた形で古代米の試食や勾玉作りなど古代体験を中心に始まりました。

2005(平成17)年、三ツ寺Ⅰ遺跡や国指定史跡保渡田古墳群の調査・研究で解明された当時の祭祀の様子について、わかりやすく伝えることはできないかということになり、学芸員がオリジナル脚本を書き、当初は当時の群馬町職員を中心に「王の儀式」再現劇を上演しました。

2006(平成18)年からは「王の儀式再現の会」(40～50人)が中心となり、出演者を一般公募し、渡来人による絹の献上、中央政権ヤマトの使いによる鏡の下賜、水取りの儀やイノシシ狩りの儀など当時の王が執り行った儀式を再現しました。上郊小学校の児童も総合的学習の一環として、王の儀式再現劇の上演に参加しています。

同博物館では、プロジェクト6000(はにわの里づくり)事業という壮大な市民参加事業も実現しています。

■「プロジェクト6000(はにわの里づくり)」事業

5世紀後半に造られた八幡塚古墳を、古墳時代の姿に復元・整備する「プロジェクト6000」が2000(平成12)年から始まりました。公募による一般参加者と博物館ボランティアによって2009(平成21)年までの約10年間で5,651本の円筒埴輪が古墳に並べられ、同事業は完了しました。この間に開催された埴輪づくり教室は547回、参加者は延べ3,980人に達しました。



古代大王のパレード(八幡塚古墳)

ポイント1



学芸員の専門性を最大限に発揮

「王の儀式」は約1500年前、5世紀の榛名山東南麓の豪族たちが行った祭祀の様子を三ツ寺Ⅰ遺跡などから出土した遺物などの資料から再現したものです。学芸員による国指定史跡・八幡塚古墳という学術的評価の高い研究成果をベースに復元保存がなされている恵まれた環境を舞台として劇が再現されている点が、事業に輝きと継続性をもたらしています。

今後は再現劇を、地域のイベントから全国レベルへと引き上げるため、広報活動やキャストとスタッフの充実を図るとともに、劇で使用される道具や舞台装置などを、より当時のものに近い形で再現を進めたり、上演時間を昼間ではなく幻想的な夜間の上演を試みるなど、内容の更なる向上に努めようとしています。



水取りの儀

ポイント2



手づくりにこだわった再現劇

「王の儀式再現の会」は、10月末の「王の儀式」上演に向けて、4月に参加者の公募を行い、6月には練習を開始しています。こうした長期間にわたる準備が、再現劇を臨場感にあふれた本格的なものにしています。

第3回の開催となる2008(平成20)年には、小学校6年生から70歳までの出演者が、王、巫女、力士、武人、渡来人などにふんして再現劇を演じ、大勢の人が鑑賞にきました。

また、隣り合う二子山古墳の保存、整備にあたっても、地域の方々による緑化、植栽が行われていますが、これも日本では最初の例の一つです。

鼻高町をきれいにする会の活動

経緯



鼻高展望花の丘

かつて鼻高町は、養蚕が盛んでたくさんの桑畑がありました。

しかし、昭和50年代に入り、団地の造成により人口が増加し、同時に養蚕農家の後継者不足や離農などが重なって養蚕が衰退したことにより桑畑の維持管理が困難となり、荒れ果てた姿に変わってしまいました。伸び放題の桑に覆われてしまった鼻高の丘に、かつての美しい景色をなんとかして取り戻そうと立ち上がった有志が2001(平成13)年、地域住民ボランティア組織である、「鼻高町をきれいにする会」を発足させ、荒れ果てた桑園3.5haの整備に乗り出しました。

ちょうど耕作放棄地を有効活用するために「農業ふれあい四季の里事業」を高崎市がスタートしたのを受けて、市と同会が協働して地域の再生を始めることになりました。

地元の人々が提供した農地を自分たちで整地し、「鼻高町をきれいにする会」が花の植え付けなどによる景観作りを行い、「鼻高展望花の丘」が形づくられていきます。

ポイント1



世代や地域を超えた交流と体験活動

荒れた桑畑をきれいな花畑にするために、作業ボランティアを地元住民に呼びかけ、自分たちの手で作り始めました。整備された鼻高展望花の丘には菜の花、ひまわり、コスモスなど年間を通して17種類ほどの草花が植栽され、春の「菜の花まつり」、秋の「コスモスまつり」などを開催することにより、年間を通して訪れる人が増え、地元ではない地域の人たちとの交流が始まりました。

鼻高展望花の丘は観音山丘陵の西にあって、180度の眺望が素晴らしく、上毛三山、上越国境の山々の景観が特に秋から冬にかけて美しいため、住民による景観図画が案内板として設置されています。

また、地元の幼稚園児や保育園児、小学校の児童たちに種まき体験や農業体験ができる機会を作り、じゃがいもの植え付けや収穫、花摘み体験などを通して、地域住民同士の世代間交流も図っています。



花の苗の植付け

ポイント2



行政との協働からエコプロジェクトへ

鼻高町をきれいにする会の活動で2005(平成17)年度からは、群馬県と協働して環境に配慮した循環型の「菜の花エコプロジェクト」に取り組んでいます。「菜の花エコプロジェクト」は採取された菜種から菜種油をつくり、学校給食に利用するほか、イベントで販売した売り上げを活動の資金の一助にします。油かすは肥料に使い、廃食油はバイオディーゼル燃料にリサイクルします。

2007(平成19)年度から、鼻高小学校ではこの菜種油を使用した献立を、「学校給食ぐんまの日」に提供し、児童と教職員から大変喜ばれるとともに、食育にも役立てています。また、鼻高展望花の丘に植えたじゃがいもなどを収穫し、地元の学校に提供しています。

こうした中で同会は、2007(平成19)年にNPO法人になりました。NPO法人「鼻高町をきれいにする会」は、約100人の会員から構成されていて、理事会の下に事務局、事業部会、イベント部会、婦人部会、監事などのしっかりした組織を持ちながら、ますます活動の輪を広げています。



菜の花から作った菜種油

献上日高米づくり

経緯

高崎市制100周年にあたる2000(平成12)年に新高尾地区の区長会が中心となり、地域おこしのために、「郷土愛唱歌事業」、「日高遺跡展(新高尾のあけぼの)」、「タイムカプセル事業」を実施しました。

翌年からは、弥生時代から平安時代に至る水田遺構である国指定史跡・日高遺跡を地域再発見の核にすえ、地域に住む人々の心の拠り所としてあった「献上日高米づくり」に挑戦し始めました。

2004(平成16)年、新高尾公民館に隣接する新高尾小学校の5年生が、総合的な学習の時間に米づくりを取り入れるのにもとない、児童と保護者が加わるようになり、これを機に耕作地も1,600㎡に拡大し、新高尾地区全体を巻き込んだ大きな活動となっています。



小学生による稲刈り

ポイント1



地域の資源・文化の再発見～区長会・地域まちづくり実行委員会・公民館との連携～

新高尾地区は、日高遺跡のみならず昔から土壌の良い米どころとして知られ、明治時代から昭和初期にかけて「日高米」の名で、収穫された米を皇室へ献上していました。

こうした歴史的背景を踏まえ、米離れが進んでいる今、米づくりの精神を忘れないために公民館と地域まちづくり実行委員会が主体となって事業を実施してきました。

2001(平成13)年に公民館に隣接する休耕田600㎡を借り、募集した地域の親子60名で1年間、苗作りから始まる田植え、稲刈りと行程表に示された一連の作業を実施しました。試行錯誤の1年を経過し、実行委員会の強化とともに、地域の協力により手作業を基本とした米づくりは軌道に乗り、継続して進められています。

区長会と地域まちづくり実行委員会、公民館が連携した活動は、日高米づくりを通じた地域意識の高まり、協力の実績によって、新高尾地区の多様な問題解決の基礎を支える力となっています。



公民館でのもちつき大会

- * 公民館では…12月に区長会・ボランティアの協力により、もちつき大会を開催しています。
- * 小学校では…全校児童に学校給食で赤飯として提供するほか、5年生はもちつき感謝祭を開催しています。
- * 町内によっては、100人を超える住民が集まり、もちつき大会を実施し喜ばれています。

ポイント2



地域全体を巻き込んだ活動の広がり～学校との連携～

田植えから稲刈りまで新高尾小学校の5年生、保護者、地域住民が協力し日高米づくりを行っています。

収穫した米は町内会、小学校、ボランティアの会等作業に携わった人たち全てに寄贈し、その活用は各団体に一任しています。児童は稲の成長記録、農機具の学習等身近な教材を通して米づくりや食育について学ぶことができ、学校(児童)・保護者・地域とのつながりが深まりました。

また、米づくりから生まれた「献上日高米おどり」を小学生が運動会で披露しています。踊りは、稲刈りから俵を担ぐ動作、神前に日高米を奉納する等が振り付けられ、大人から子どもへ、先輩から後輩へ引き継がれています。こうした活動を通して、児童と地域住民が顔見知りになり、地域全体で子どもたちを見守る雰囲気生まれ、安全・安心な地域づくりにつながっています。

しかし、地域の都市化の進展により、営農者の減少や委員の高齢化が進んでおり、地域まちづくり実行委員会の中では、指導者・ボランティア養成を計画的に進めていくことの必要性を痛感しています。

子育て情報紙作成委員会の活動

経緯

ぶれパパ ぶれママ 0,1,2

2004(平成16)年度、高崎市が主催した「子育てサークルと団体の集い」の中での、「高崎に転居してきたとき、第1子が生まれたとき、子育てに必要な情報がどこへ行ったら手に入るのかわからない。子育ての情報がもっと身近に気軽に手に入らないか。」という参加者の声から、『たかさき子育て情報たまて箱』は生まれました。

第1号 『たかさき子育て情報たまて箱』【2007(平成17)年3月3,000部発行】

～地域の活動を紹介しやす ころの窓をあけてみませんか?～

第2号 『ぶれパパ ぶれママ 0,1,2,』【2009(平成21)年3月15,000部発行】

～子どもとパパ・ママと一緒に楽しんで元気になるキツカケがギュッとつまった情報紙ができました～

第3号 『すく(☺)いく』(すくすくいくじの略称)【2010(平成22)年4月15,000部発行】

～ぶれパパぶれママ0～5才～



ポイント1



行政の組織にとらわれない参加者の広がり～子育てサークルと団体の集い～

2004(平成16)年度当初、子育て中の自主サークルや子育て支援に関係する機関や団体も、活動が始まったばかりのところが多く、地域にあるサークルや団体の実態もつかめず、個々のつながりがほとんどなく、それぞれの活動は手さぐりの状態でした。

2007(平成19)年度からは、「子育てには様々な立場の人がかかわることが大事」という参加者の要望で、それまでは公民館を利用している団体中心だったものを、行政の組織にとらわれず、保育園、幼稚園、子育てサロン、民生児童委員、母子等保健推進員、団体や町内公民館などを利用している子育てサークルなどへ参加を呼びかけました。市民の側からは個々のネットワークを活かし、「楽しいから参加してみようよ」と呼びかけ、随時40名ほどの参加者がありました。

その結果、生まれたばかりの子育てサークルから、ベテランの支援者や専門職までで構成されるようになり、集いそのものも参加者の意見が反映され、より身近なものに変化していきました。

ポイント2



情報紙づくりそのものが行政との協働体験の場に

情報紙づくりは、市の職員2名と、集いの参加者のほか公募も行い、子育てに関わる様々な人たちで作成委員会を結成し、互選により編集長を置き、作成にあたりました。

作成委員会では、子育て世代が求めているものは何か、このことに十分に時間を割いて論議し、手にとって見たくなる情報紙づくりに努めました。「何のためにどんなものを作るか」を何度も丁寧に話し合い、情報の内容や装丁、色や文字の形、配布先など手作りで作業を進めました。

掲載した内容も公民館からの情報提供だけでなく、編集に関わるメンバーが積極的に情報収集にあたり、立場や経験、年齢も超えて、お互いの得意な部分を活かしあうことはまさに協働の体験でした。顔見知りになり心が知れてくると、もっといいものを、もっと大勢の人にと、意欲もわいてきました。

第1号作成時に作成委員会では、小児科、助産院、保健所、乳児検診時に配布したいなど、夢は大きく広がりましたが、実際には保育所の子育て支援センターや、市の関連施設、公民館などへの配布にとどまりました。第2号のぶれパパ、ぶれママになると、第1号の評判や、サークルや団体の広がりもあって、多方面に配布されるようになりました。

これら一連の活動が行政からの呼びかけだけでなく、協働で取り組めたことで人とのつながりを深めるとともに、お互いの持っているノウハウの共有や活動に誘いあうなど、ネットワークづくりや活動の質の向上にもつながっています。



検討作業の様子

世界エイズデーinたかさき

経緯

毎年11月に入ると、スズラン前のタブの木にレッドリボンのイルミネーションがともされます。クリスマスの飾りと思っている人も多いようですが、12月1日の世界エイズデーに合わせて1997(平成9)年からともし続けられているイルミネーションです。

エイズは、正しい理解があれば、確実に防げる病気ですが、性感染が中心だけに偏見に陥りがちです。

そこで、子どものうちから正しい知識を身に付けてもらおうと、高崎市は、1993(平成5)年文部省からエイズ(性)教育推進地域事業の指定を受けたことを機に、指定期間が終わった直後の1997(平成9)年から「世界エイズデーinたかさき」事業を開始しました。校区を基本単位に、次の事業が続けられています。

- 1) 各校学校保健委員会でのエイズをテーマとした学習や委員会の開催
- 2) 各校でのレッドリボンとメッセージカードの作成(レッドリボン約40,000個、メッセージカード約20,000枚)
- 3) 校区内キャンペーン(駅、公民館、支所、郵便局、金融機関など)
- 4) 広報紙『AIDS』発行(小学生版約5,200枚、中・高校生版約11,000枚)
- 5) 各校でのレッドリボンパネルの制作と商店街等での展示
- 6) 中学校でのベビーキルト制作と展示(高崎市総合福祉センター)
- 7) タブの木のレッドリボン・イルミネーション
- 8) レッドリボンりんごの販売と商店街での啓発
- 9) ビデオを通しての人権学習
- 10) 健康教育フェアでの「エイズ予防に関する講演会」とレッドリボンのパネル展示



レッドリボン

ポイント①



学校から地域へ：学校保健会を基盤に多様な団体参加の実行委員会がコーディネート

世界エイズデーが学校から地域へと広がり、全市的事业として定着したのは、学校保健会以外に市内の多様な団体も参加して実行委員会を作り、事業をコーディネートしている点にあります。

中核的参加者として、高崎市学校保健会、群馬県西部保健福祉事務所、駅前通り商店街、西一条通り商店街、中部名店街などの商店街組合、NPOぐんま、中央公民館、学校関係者が挙げられます。さらにスズランや、高島屋、JR、上信電鉄、沼田のりんご組合などの積極的な協力が得られるようになっています。

どの地域にも共通することですが、出発が各学校でのエイズ教育にあることから、レッドリボンとメッセージカードの配布場所は、駅、金融機関、ホームセンターなど、各地区の特色を生かした取り組みになっています。

一方、各校作成のレッドリボンパネルは、中心商店街のウインドーやスズラン・高崎市総合福祉センター・各支所等の協力を得ての展示というように、全市性を考慮した事業となっています。



レッドリボンパネルの展示

ポイント②



点検、改善、学習のサイクルが定着

実行委員会は年1～2回しか開かれませんが、毎年、前年度の成果と課題、それを踏まえた新年度目標と各団体の事業内容、改善項目が議論され、その合意のうえに事業が進んでいます。

また、エイズの最新情報に関して、各校での学校保健委員会だけでなく、実行委員会をはじめ健康教育フェアでも学習し、最新情報を共有するように努め、事業のマンネリ化を防いでいます。

このように成熟し、点検・反省、いわばPDCAサイクルが定着している事例と言えますが、それでも悩みがあります。それは、HIV感染の恐れが一番高い若い世代、大学や青年団体等の積極的な参加が十分とはいえないことです。今後、この世代を巻き込んでの活動を考えていく必要があります。

新町歌劇団の活動

経緯

中山道の開通により江戸から11番目の宿場駅として江戸時代に新しく設けられた町、それが新町です。またこの地は東は埼玉県境を流れる神流川、北は烏川に囲まれて昔から人の動きも多く、神流川合戦など歴史的な話題も豊かな地です。

地域色の濃い特色ある独自の文化を生み出したいという地域の人たちの声に応えて、1986(昭和61)年、当地出身の指揮者らが呼びかけ人となって、「まず地域の人たちに素晴らしい音楽を」との願いをこめて新町公民館合唱団が発足しました。

当初の団員数は22名ほど、2名の指導者と週1回の練習で、発足した年には第1回の演奏会を開催しました。

ポイント1



公民館活動から自立した市民活動へ

1988(昭和63)年には新町図書館の開館を記念し、創作民話「おにころ」が誕生しました。上州と武州の村人たちの水を巡る争いを自らが大きな岩となって解決し愛を取り戻すというお話です。

新町公民館合唱団は1991(平成3)年「おにころ」をミュージカルとして初演、1993(平成5)年には新町文化ホールでこけら落としとして「おにころ」を再演しました。これらの公演は非常に好評で公民館合唱団が地域の人々の身近な存在となり、1997(平成9)年に新町歌劇団へと発展する大きな要因となりました。



おにころの上演

ポイント2



横のつながりを育む歌劇団

歌劇団は新町地域内の多くの商店や企業、個人の賛同者から様々な形での支援や上演に際しての呼びかけなど、直接間接に多くの協力が得られています。また、公民館を中心として活動を行っている児童合唱団や様々な生涯学習グループとの相互の協力連携も大きな役割を果たしています。

団員数は子どもから大人まで総勢26人、「おにころ」初演の頃子どもだった団員が現在は大人の団員として参加しています。練習は毎週土曜日、公民館を会場に、毎回ほぼ全員が集まって熱の入った練習が繰りひろげられています。指揮は当初の呼びかけ人でもある当地出身の指揮者が引き受け、各年代層にわたる多くの人たちから愛され地域に根差した活動として定着しています。

このように、歴史を守りながら新しい時代に対応した新町を育てていこうとする新町地域の人たちの声を背景に、新町歌劇団は、ミュージカルを通じて、「愛」や「地球温暖化」などの重要なテーマを表現し続けることを目指しています。

今後の活動の基本方針としては、まずあくまでも地域の人たちの要望に応えられる活動とするために、関係団体やグループとの交流を深め、普段の練習の成果を幅広く発表できるよう努めていきます。また新町少年少女合唱団との連携をさらに深め、後継者の育成に努めていきます。

転勤等による団員の減少および高齢化に伴う問題への対応について、日常の活動を通じて理解を深めることが大切と考えています。団員の高齢化については、より積極的に世代を超えた働きかけを進めていくことが求められます。



練習風景



ノアの方舟の上演

資料に見る高崎の生涯学習

1 高崎市の現況

(1) 沿革

高崎市は1900(明治33)年に市制を施行、高崎町から高崎市となり、2000(平成12)年4月1日に全国で唯一の市制100周年を迎え、2001(平成13)年4月1日には特例市に移行しました。また、2006(平成18)年1月23日に高崎市、倉渕村、箕郷町、群馬町および新町の5市町村による合併を、同年10月1日に榛名町との合併を、さらに2009(平成21)年6月1日に多野郡吉井町との合併を経て、新高崎市は人口37万3000人を超える群馬県一の都市となっています。現在は、中核市移行に向けた準備作業を進めているところです(2011(平成23)年4月に移行予定)。



出所)高崎市・吉井町合併協議会
「高崎市・吉井町新市基本計画」(2008年)3頁、を
参考に作成しています。

(2) 位置と地勢

高崎市は、群馬県の中西部に位置し、東は前橋市、玉村町、西は安中市、富岡市、甘楽町、長野県、南は藤岡市、埼玉県、北は渋川市、榛東村、東吾妻町、長野原町に接しています。また、日本列島の中では、ほぼ中央部にあり、東京へ約100km、新幹線で約50分という位置にあります。

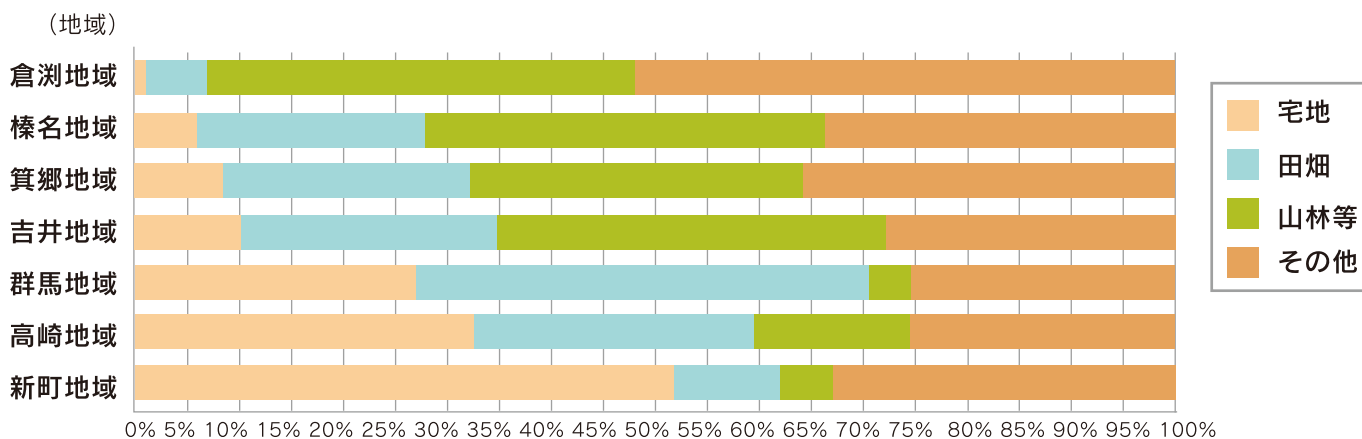
古くから交通の要衝として発展し、現在は高崎、信越、上越、両毛、八高および上信の各線の基点として重要な位置にあり、また高速自動車道3路線、そして国道5路線が集中する全国有数の内陸交通の拠点性を有しています。

また市域通過の北関東自動車道が全線開通すると、さらに本市の交通拠点性が高まるものと期待されています。

地形は、三日月形を成しており、南東部は関東平野の一部を形成する平坦地形である一方、北西部はゆるやかな丘陵地形や自然豊かな山々に囲まれた山間地形を有しています。

(3) 地目別土地面積

高崎市の面積は459.41km²(2009(平成21)年10月1日)で群馬県全体の約7%を占めています。下のグラフは宅地利用を中心に地目別面積を示したものです。



出所)高崎市総務部庶務課統計担当編「高崎市の統計平成19年版」(2008年)7~8頁、を参考に作成しています。
吉井地域は当時の吉井町ホームページ(<http://www7.wind.ne.jp/yoshi/sogo/toke.htm>、平成21年4月1日当時)を参考に作成しています。

(4) 各地域の特性

【倉淵地域】

倉淵地域は、烏川源流の清らかな水、緑深い山々など、豊かな自然環境と美しい景観を持ち、訪れる人々や市民に潤いや安らぎを与えています。また、数多くの道祖神がたたずむ里であり、江戸幕府末期の勘定奉行小栗上野介が眠る地です。

現在は、少子高齢化や過疎化が進み、主産業である農業では後継者不足による遊休農地が増えている一方で、有機農業による新規就農者の参入も多く見られます。

【榛名地域】

榛名地域は、豊富な歴史的・文化的資源や榛名山麓の自然を生かした観光レクリエーション基地として、また東日本一の生産量を誇る梅をはじめ、梨・桃・豚・鶏などの農畜産物の供給基地として発展してきた地域です。

また、北陸新幹線安中榛名駅の開設や榛名地域を拠点とした各地への幹線道路網の整備が進みつつあり、さらに観光拠点としての機能が高まっています。

【箕郷地域】

箕郷地域は、榛名山南麓の緩傾斜地帯に位置し、戦国の世の名城である箕輪城の城下町として栄えてきました。近年は、梅の生産など農業を中心として発展する一方、市内中心部への交通の便が良いことから郊外住宅地として開発が進み、人口増加が続いている地域です。

また、100年の歴史と東日本随一の規模を誇る箕郷梅林や芝桜公園、鳴沢湖などの資源に恵まれ、都市近郊の身近な観光地としてにぎわいをみせています。

【群馬地域】

群馬地域は、上野国分寺跡や保渡田古墳群、北谷遺跡などの歴史遺産が数多く存在しているほか、歌人土屋文明や詩人山村暮鳥を輩出した文化の薫り高い地域です。また、国府白菜をはじめ、地域の特色を生かした農産物の生産も行われています。

近年では、幹線道路網の整備や商業施設の立地が進み、市内中心部や前橋市に近く生活しやすい環境から、著しい人口増加が見られます。

【新町地域】

新町地域は、中山道の開通により江戸から11番目の宿場町として街並みが築かれ、その後、官営新町屑糸紡績所(旧内務省勸業寮新町屑糸紡績所)の開設や国鉄高崎線の開通、さらには自衛隊の誘致により全国から流入する人々との交流によって発展してきました。

現在は、公共施設の整備状況や公共下水道の普及率に代表されるように、生活環境が整った都市的住宅地としての色彩が濃い地域となっている一方、鉄道と国道により南北に分断されている地域です。

【高崎地域】

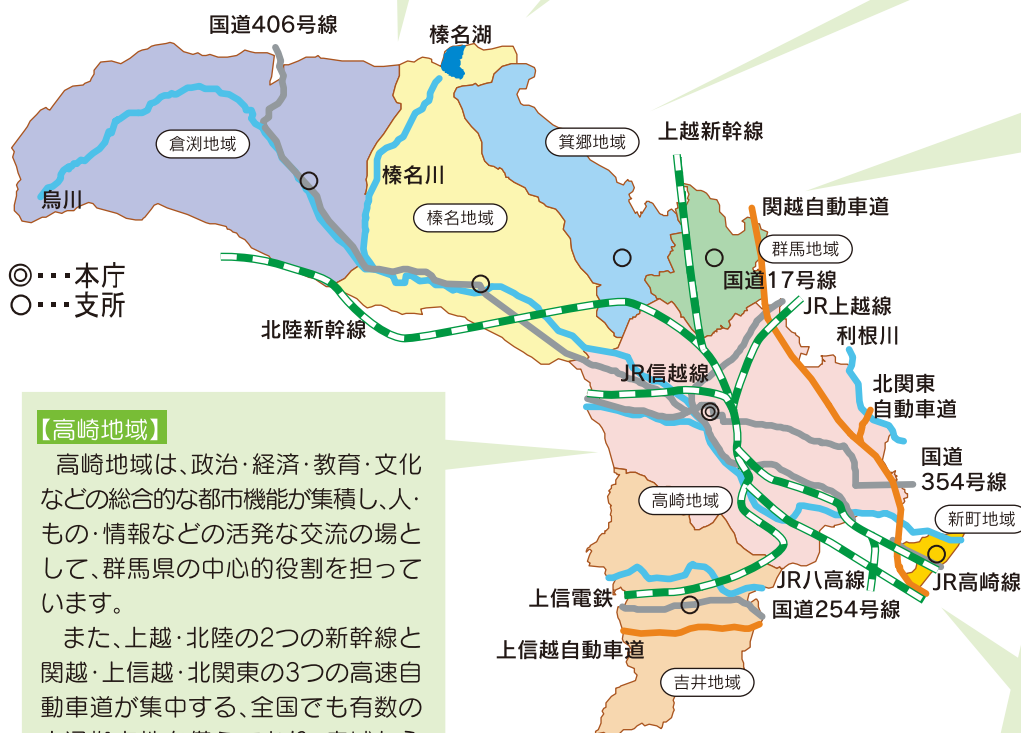
高崎地域は、政治・経済・教育・文化などの総合的な都市機能が集積し、人・もの・情報などの活発な交流の場として、群馬県の中心的役割を担っています。

また、上越・北陸の2つの新幹線と関越・上信越・北関東の3つの高速自動車道が集中する、全国でも有数の交通拠点性を備えており、広域から集客のある北関東随一の商業都市として発展しています。

【吉井地域】

吉井地域は、日本三古碑の一つである多胡碑をはじめとした数多くの貴重な文化的遺産や史跡を持つ地域です。

現在は、企業進出や住宅団地造成により宅地化、都市化が進んでいるため、それらに応じた基盤整備を図るとともに、豊かな自然環境や文化遺産などの地域資源を活用した整備を推進しています。



(5) 市域の推移

年月日	地域の異動	面積(km)
1900(明治33)年 4月1日	市制施行	4.87
1927(昭和 2)年 4月1日	群馬郡塚沢村および片岡村と合併	28.04
1939(昭和14)年 10月1日	群馬郡佐野村と合併	35.58
1951(昭和26)年 4月1日	群馬郡六郷村と合併	41.77
1955(昭和30)年 1月20日	群馬郡新高尾村の一部、群馬郡中川村、碓氷郡八幡村、碓氷郡豊岡村と合併	56.48
同年 8月1日	群馬郡長野村と合併	71.26
1956(昭和31)年 9月30日	多野郡八幡村、群馬郡大類村と合併	87.87
1957(昭和32)年 8月1日	群馬郡岩鼻村の一部と合併	90.96
同年 9月1日	旧群馬郡大類村(下大類村)の一部を群南村に編入	89.34
1963(昭和38)年 3月31日	群馬郡倉賀野町と合併	93.36
1965(昭和40)年 1月1日	高崎市八幡町の一部を安中市へ編入	93.33
同年 9月1日	群馬郡群南村と合併	110.56
1968(昭和43)年 7月1日	旧群馬郡群南村(大沢町)の一部を前橋市と編入替え	110.48
1971(昭和46)年 8月1日	高崎市八幡原町の一部を佐波郡玉村町と編入替え	110.48
1977(昭和52)年 9月1日	高崎市下斉田町の一部を佐波郡玉村町と編入替え	110.48
1983(昭和58)年 4月1日	高崎市正観寺町の一部を群馬郡群馬町と編入替え	110.48
1984(昭和59)年 4月1日	高崎市八幡原町の一部を佐波郡玉村町と編入替え	110.48
同年 12月1日	高崎市楽間町の一部を群馬郡箕郷町と編入替え	110.48
1985(昭和60)年 4月1日	高崎市町屋町の一部を群馬郡榛名町と編入替え	110.48
1989(平成 元)年 10月 1日	高崎市楽間町、行力町の一部を群馬郡箕郷町と編入替え	110.72
1990(平成 2)年 10月1日	建設省国土地理院が面積地を測定した結果による面積変更	110.73
1993(平成 5)年 10月1日	面積修正	110.72
2006(平成18)年 1月23日	群馬郡倉沢村、箕郷町、群馬町および多野郡新町と合併	307.42
同年 10月1日	群馬郡榛名町と合併	401.01
2009(平成21)年 6月1日	多野郡吉井町と合併	459.36
同年 10月1日	2万5千分の1の地形図の修正面積変更	459.41

出所)高崎市議会事務局編「市勢概要 平成21年度(2009年度)版」(2009年)2~3頁、を参考に作成しています。

(6) 人口の推移

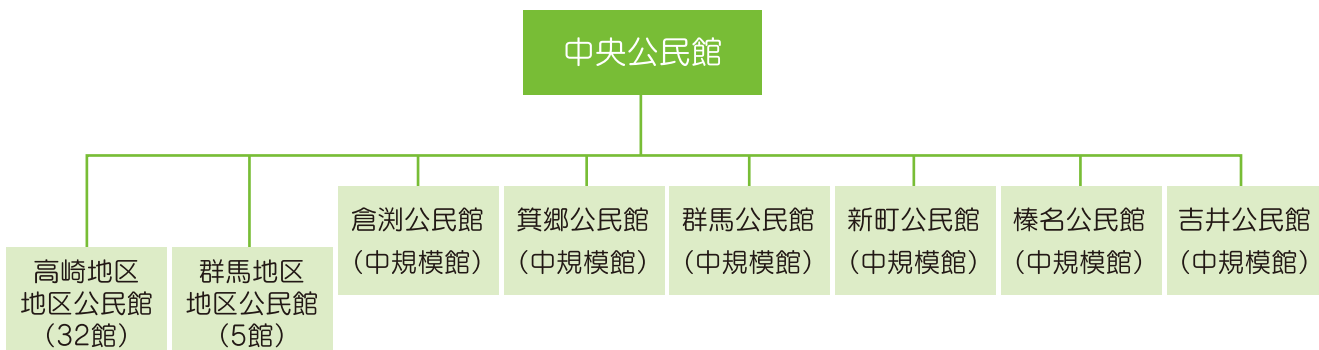
年次等	総数	男	女	世帯数	人口密度 (1km2当り)	1世帯平均 人数	面積
1900(明治33)年 市制施行	32,467			5,924	6,667	5.5	4.87
1920(大正 9)年 国勢調査	36,792			7,911	7,555	4.7	4.87
1930(昭和 5)年 //	59,928			12,246	2,237	4.9	28.04
1940(昭和15)年 //	71,002	34,726	36,276	14,504	1,996	4.9	35.58
1950(昭和25)年 //	92,964	45,088	47,876	19,775	2,613	4.7	35.58
1960(昭和35)年 //	142,152	68,813	73,339	31,973	1,582	4.4	89.34
1970(昭和45)年 //	193,072	95,378	97,694	53,040	1,748	3.6	110.48
1980(昭和55)年 //	221,429	109,501	111,928	68,550	2,004	3.2	110.48
1990(平成 2)年 //	236,461	116,472	119,989	80,187	2,135	2.9	110.73
2000(平成12)年 //	239,904	118,208	121,696	90,552	2,167	2.7	110.72
2006(平成18)年 各年4月1日	321,499	158,697	162,802	127,988	1,046	2.5	307.42
2007(平成19)年 //	345,360	170,263	175,097	137,813	861	2.5	401.01
2008(平成20)年 //	346,318	170,675	175,643	139,535	864	2.5	401.01
2009(平成21)年 //	347,939	171,441	176,498	140,598	868	2.5	401.01
2009(平成21)年 6月1日	373,940	184,365	189,575	150,297	814	2.5	459.36

出所)高崎市議会事務局編「市勢概要 平成21年度(2009年度)版」(2009年)3頁、のほか高崎市市民生活課資料を参考に作成しています。
なお、2006(平成18)年からのデータには外国人登録人口が含まれます。

2 高崎市の公民館をめぐる概況

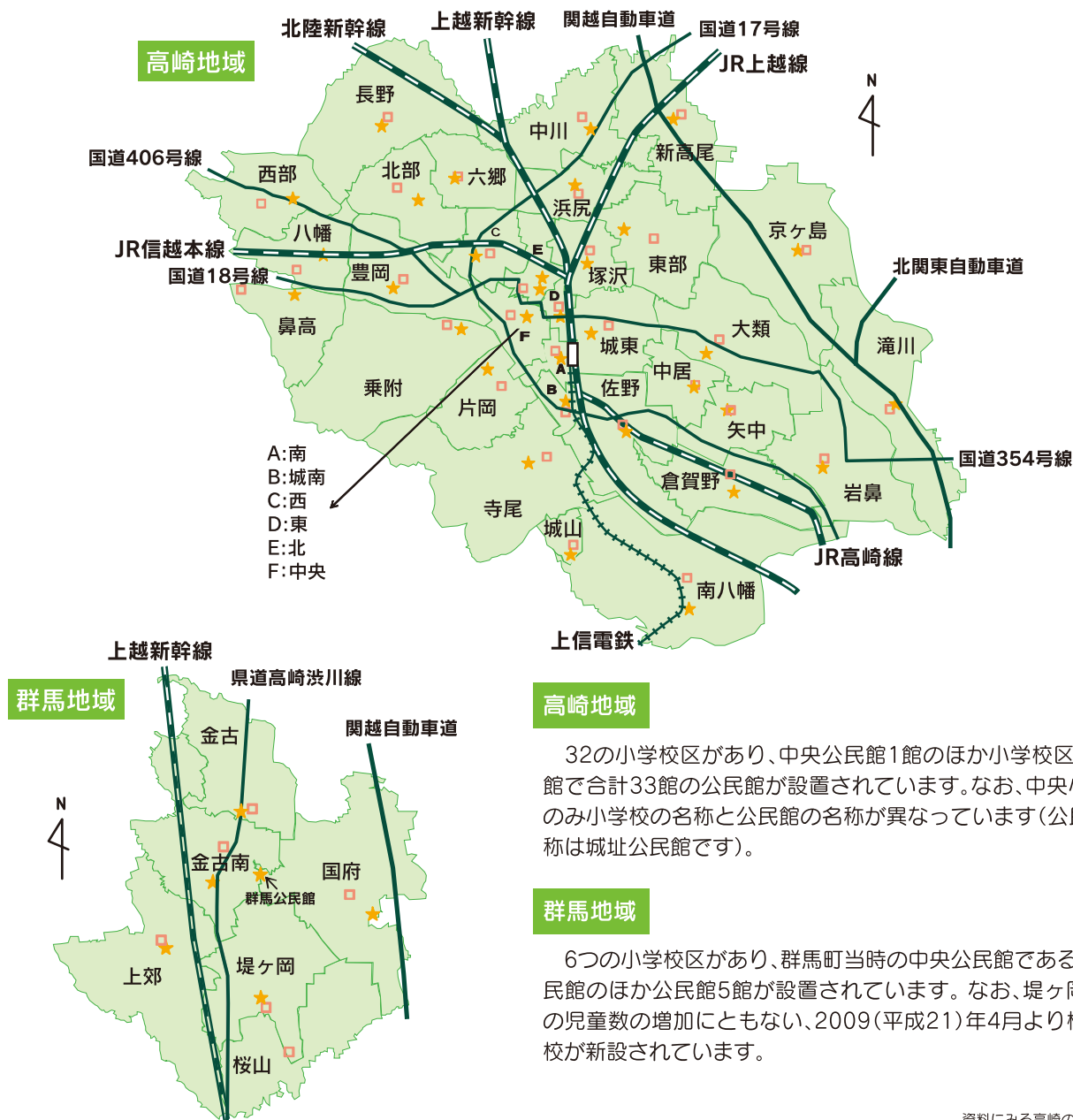
(1) 公民館体制(平成21年6月1日現在)

高崎市には中央公民館1館のほか公民館が43館あります。



(2) 公民館の位置と小学校区

★：公民館の位置 □：小学校の位置



倉渚地域



倉渚地域：3つの小学校区があり、当時の倉渚村の中央公民館である公民館1館が設置されています。

箕郷地域



箕郷地域：3つの小学校区があり、当時の箕郷町の中央公民館である公民館1館が設置されています。

榛名地域



榛名地域：7つの小学校区があり、図書館、文化会館との複合施設エコールの中に公民館があります。

吉井地域



吉井地域：7つの小学校区があり、当時の吉井町の中央公民館である公民館1館が設置されています。

新町地域



新町地域：2つの小学校区があり、公民館1館が国道17号線北側に設置されています。

(3) 公民館等の施設基礎資料

	公民館名	設置町内会	小学校	中学校	敷地(m ²)	建築面積(m ²)	校区面積(km ²)
第1ブロック	南	八島町	南	高松	471.87	485.25	0.66
	城南	下和田町	城南	高松	447.00	417.98	0.77
	城東	東町	城東	高松/大類 塚沢/佐野	997.28	416.76	2.16
	西	並樓町	西	第一/並樓	1,332.50	442.90	2.00
	東	弓町	東	高松	750.03	450.00	0.58
第2ブロック	北	昭和町	北	第一	2,510.65	480.74	1.26
	城址	柳川町	中央	第一/高松	889.24	450.66	1.32
	佐野	上佐野町	佐野	佐野/倉賀野	1,010.78	422.09	4.17
	塚沢	飯玉町	塚沢	塚沢	851.25	420.43	1.84
	東部	貝沢町	東部	塚沢/大類	768.25	433.24	3.52
第3ブロック	中居	中居町	中居	佐野/大類	1,000.05	417.44	1.89
	矢中	矢中町	矢中	矢中	850.00	400.29	1.90
	中川	小八木町	中川	中尾	1,824.81	464.72	4.44
	浜尻	浜尻町	浜尻	並樓/中尾 塚沢	747.81	414.95	2.46
	新高尾	日高町	新高尾	中尾	900.50	412.86	4.40
第4ブロック	北部	下小堤町	北部	長野郷/並樓	1,317.56	457.38	2.86
	六郷	筑縄町	六郷	長野郷/並樓	1,000.00	443.85	2.18
	長野	南新波町	長野	長野郷	1,240.00	424.37	5.95
	箕郷	箕郷町西明屋	箕輪/車郷/箕郷東	箕郷	3,475.00	951.56	43.76
	豊岡	中豊岡町	豊岡	豊岡	991.00	451.85	3.93
第5ブロック	八幡	八幡町	八幡	八幡/豊岡	1,087.94	416.82	2.60
	鼻高	鼻高町	鼻高	豊岡	991.74	429.16	2.66
	西部	金井瀬町	西部	八幡	1,181.48	409.01	3.39
	倉刈	倉刈町三ノ倉	倉刈東/倉刈中央/倉刈川浦	倉刈	1,518.00	905.67	127.26
	榛名	上里見町	下室田/中室田/上室田/里見 久留馬/下里見/宮沢	榛名	20,694.00	459.00	93.59
第6ブロック	片岡	片岡町	片岡	片岡	666.43	385.56	3.38
	乗附	八千代町	乗附	片岡	898.98	462.92	7.69
	寺尾	石原町	寺尾	寺尾	1,004.91	432.97	6.19
	城山	城山町	城山	寺尾	1,000.00	415.45	0.58
	南八幡	山名町	南八幡	南八幡	1,327.00	405.70	9.86
第7ブロック	吉井	吉井町吉井	吉井/吉井西/多胡/入野 馬庭/南陽台/岩平	吉井中央/吉井西/入野	1,600.00	577.00	58.35
	倉賀野	倉賀野町	倉賀野	倉賀野	786.88	810.66	3.77
	岩鼻	栗崎町	岩鼻	高南/矢中	994.62	425.84	4.84
	大類	柴崎町	大類	大類/高南	1,209.60	425.41	4.98
	滝川	下滝町	滝川	高南	1,335.52	423.30	5.89
第8ブロック	京ヶ島	京日町	京ヶ島	大類/高南	1,075.68	428.00	6.60
	新町	新町	新町第一/新町第二	新町	1,725.18	867.77	3.74
	群馬	榛高町			4,000.60	1,491.21	21.94
	金古	金古町	金古	群馬中央	2,300.00	605.15	2.72
	国府	引間町	国府	群馬南	1,000.00	514.08	4.90
第9ブロック	堤ヶ岡	榛高町	堤ヶ岡		1,000.00	598.00	5.15
	上郊	保瀬田町	上郊		1,825.00	513.39	5.84
	金古南足門	足門町	金古南		2,924.21	347.64	3.33
	一	中央	末広町		3,146.00	3,112.22	110.72

出所) 平成21年度「社会教育施設(公民館)台帳」調査を参考に作成しています。

注1) 校区面積については、中央、倉刈、箕郷、群馬、新町、榛名及び吉井公民館はいずれも地域全域面積(面積データは平成18年10月1日現在、吉井については平成21年6月1日現在。)です。敷地、建築面積については、平成21年10月1日現在です。

【参考】高崎市内の町内公民館数(平成21年6月1日現在)

地区公民館	小学校区	町内公民館数
南	南	5
城南	城南	2
城東	城東	6
西	西	4
東	東	5
北	北	3
城址	中央	8
佐野	佐野	9
塚沢	塚沢	9
東部	東部	6
中居	中居	2
矢中	矢中	5
中川	中川	6
浜尻	浜尻	5
新高尾	新高尾	14
北部	北部	5
六郷	六郷	3
長野	長野	11
箕郷	箕輪	39
車郷		
箕郷東		

地区公民館	小学校区	町内公民館数
豊岡	豊岡	10
八幡	八幡	8
鼻高	鼻高	5
西部	西部	5
倉刈	倉刈東	8
	倉刈中央	
	倉刈川浦	
榛名	下室田	58
	中室田	
	上室田	
	里見	
	久留馬	
	下里見	
	宮沢	

地区公民館	小学校区	町内公民館数
片岡	片岡	5
乗附	乗附	3
寺尾	寺尾	8
城山	城山	1
南八幡	南八幡	13
吉井	吉井	36
	吉井西	
	多胡	
	入野	
	馬庭	
	南陽台	
	岩平	
倉賀野	倉賀野	7
岩鼻	岩鼻	8
大類	大類	4
滝川	滝川	8
京ヶ島	京ヶ島	14
新町	新町第一	10
	新町第二	
群馬		30
金古	金古	
国府	国府	
堤ヶ岡	堤ヶ岡	
上郊	上郊	
金古南足門	金古南	

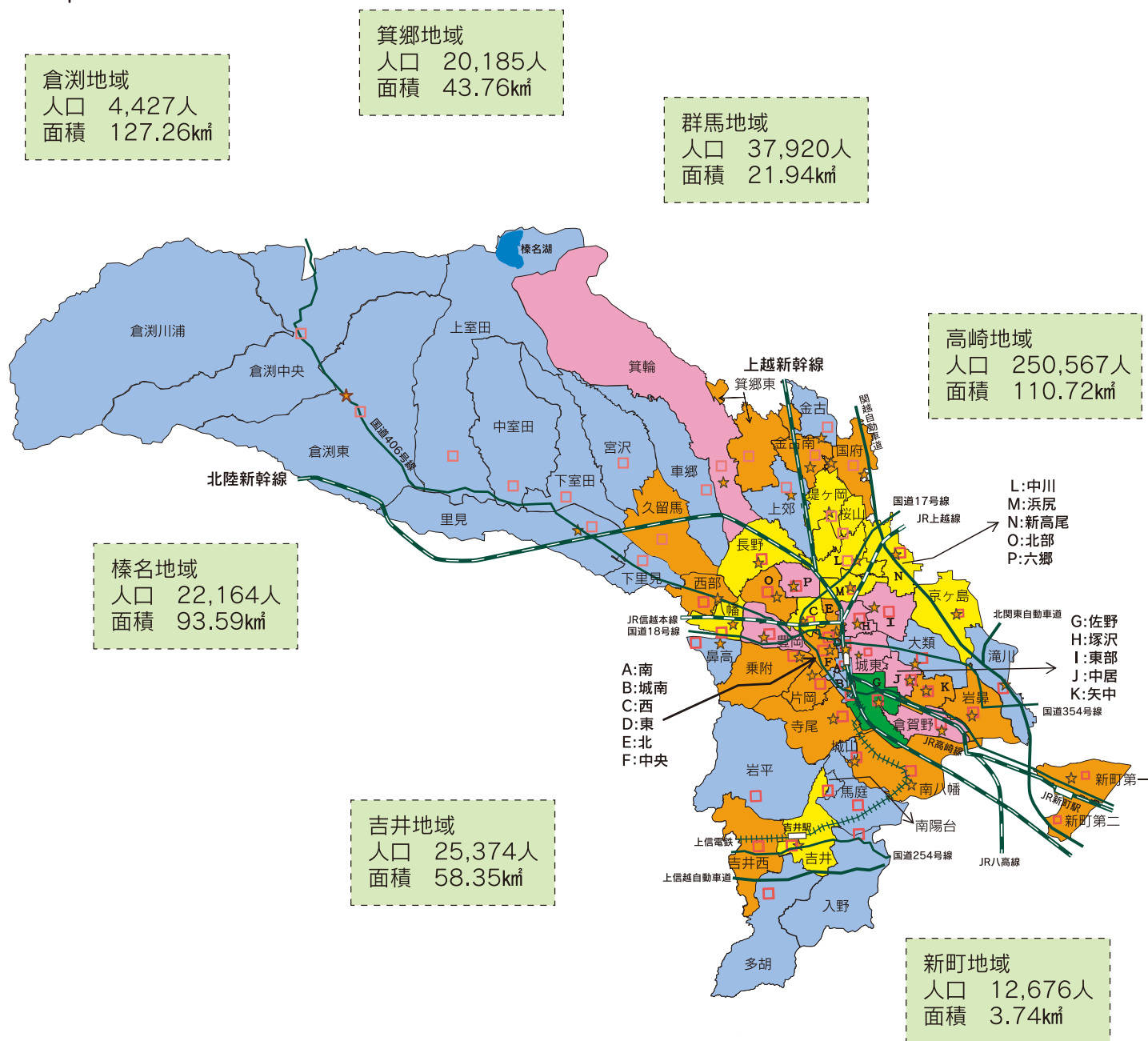
合計 388館
単位:館

【参考】高崎市内の交流館の利用人数の推移

交流会館名	18年度	19年度	20年度
寺尾	696	658	693
乗附	443	1,403	1,350
上ノ山	1,708	1,542	1,357
根小屋	1,445	1,245	1,140
小坂山	1,786	1,975	1,556
浜川	2,297	2,189	1,859
南部	6,478	5,645	5,564
剣崎	5,881	5,686	5,565
八幡	2,620	2,530	2,560
石津(倉刈)	150	670	588
保瀬田(群馬)	3,025	2,890	3,537
金古(群馬)	2,154	2,338	2,013
三ツ寺(群馬)	1,766	2,163	2,225
新町第9区	4,538	4,133	5,309
中里見(榛名)	3,826	5,663	5,639
里見(榛名)	1,455	1,414	1,937
高浜(榛名)	2,107	2,073	2,784
総計	42,375	44,217	45,676

単位:人

(4) 小学校区域別に見た人口①



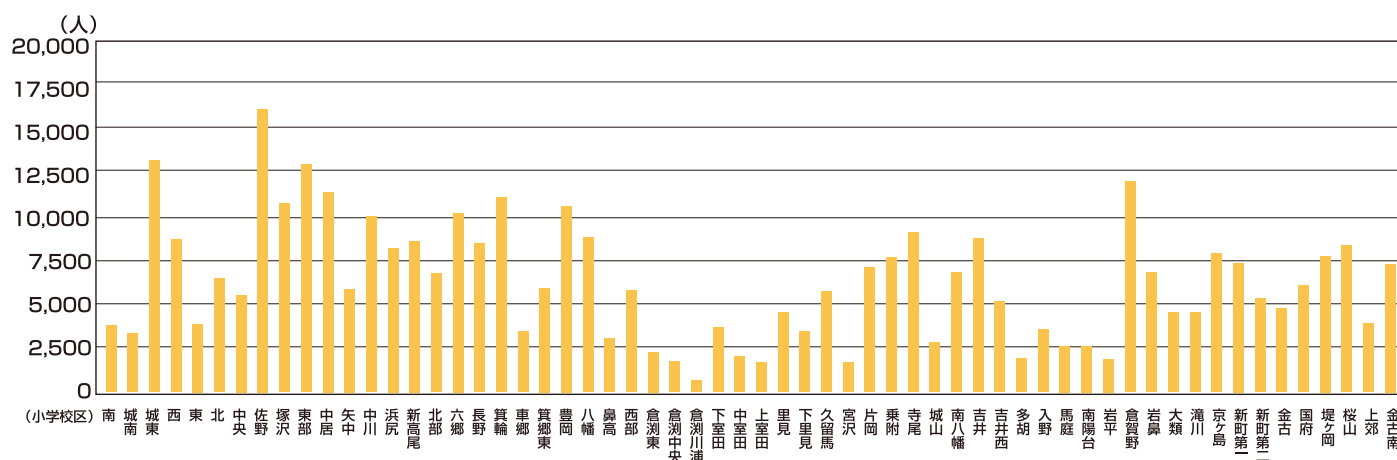
注1) この地図は高崎市総合型地理情報システムを参考に作成しています。
注2) 人口(外国人登録人口を含みます)および面積は平成21年4月1日現在。
吉井地域については平成21年5月末日現在です。
地域ごとの人口は高崎市市民生活課資料(町内会別人口)によります。
注3) 人口規模による色分けは以下のとおりです。

人口規模

15,001～20,000人	
10,001～15,000人	
7,501～10,000人	
5,001～7,500人	
～5,000人	

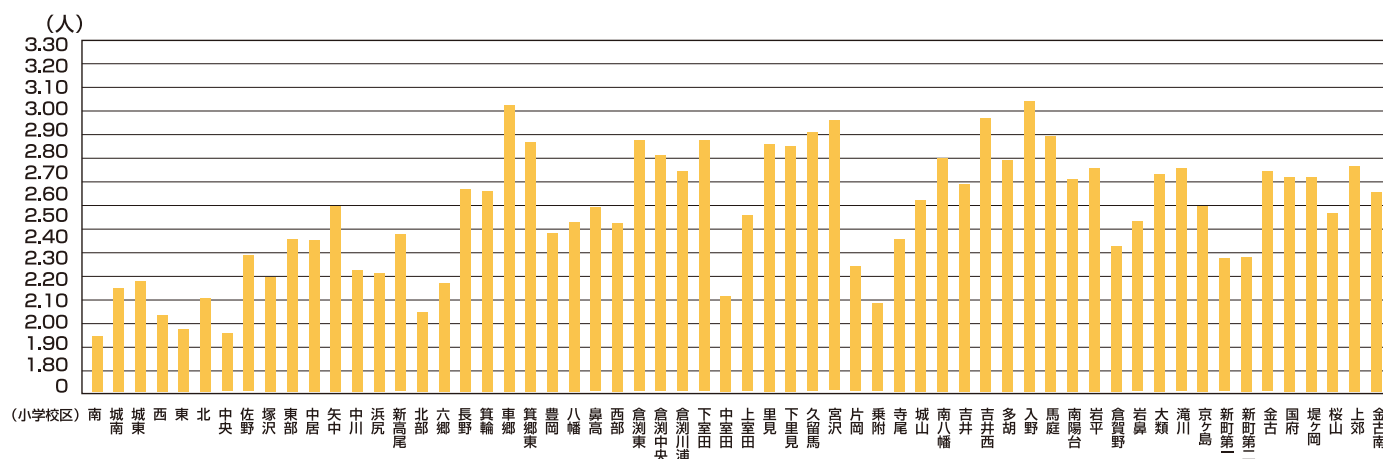
(4) 小学校区域別に見た人口②

1) 小学校区別の人口(平成21年4月1日現在(吉井地域は同年5月現在。なお、外国人登録人口を含みます。))



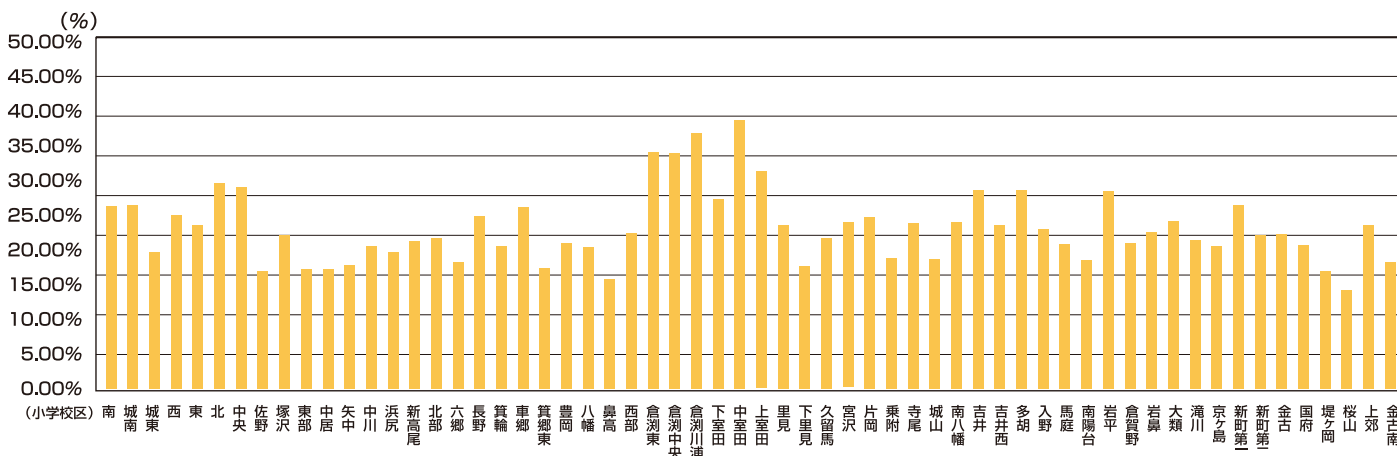
出所: 高崎市市民生活課資料を参考に作成しています。

2) 一世帯当りの人数(平成21年4月1日現在(吉井地域は同年5月末日現在。なお、外国人登録人口を含みます。))



出所: 高崎市市民生活課資料を参考に作成しています。なお、群馬県全体での一世帯当りの人数は2.64人(2009年3月末日現在、群馬県市町村課資料。)です。

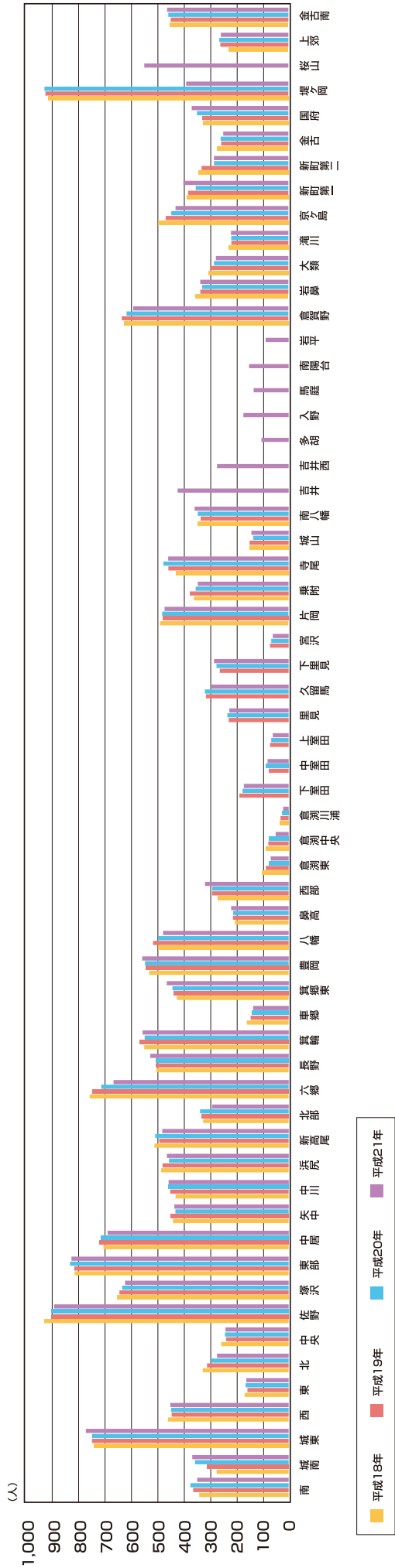
3) 小学校区別に見た高齢化率(平成21年6月1日現在。人口は住民基本台帳人口によります。)



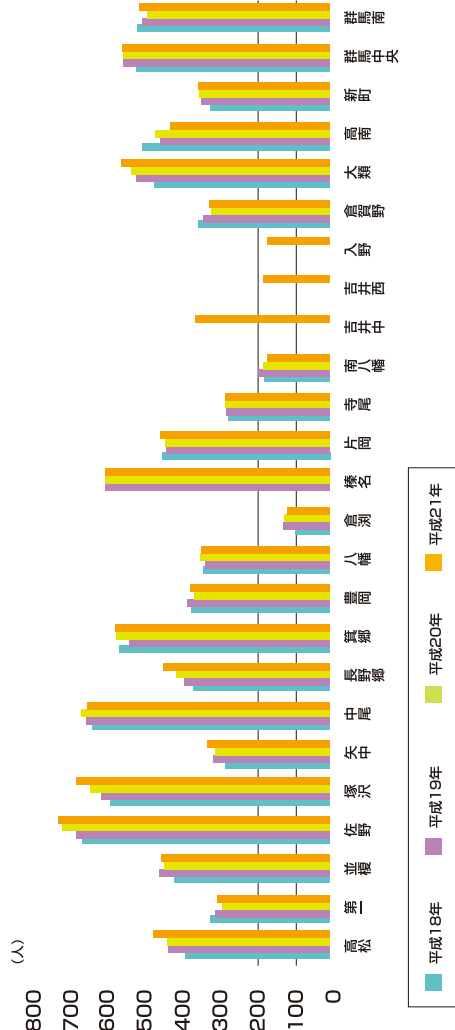
出所: 高崎市市民生活課資料を参考に作成しています。なお、群馬県全体での高齢化率は23.2%(平成21年10月1日現在、群馬県統計課資料。)です。

(6)教育機関の現況

1)小学校区別児童数の推移(各年5月1日現在)



2) 中学校区別児童数の推移(各年5月1日現在)



7 公民館の利用状況に関する基礎データ（平成21年3月31日現在）※吉井地域を除きます

B	公民館名	主催した事業		他団体の事業		子ども支援事業		図書活動			利用人数合計 (A)+(B)+(C)+(D)
		回数	利用人数(A)	回数	利用人数(B)	回数	利用人数(C)	貸出回数	貸出冊数	利用人数(D)	
第1ブロック	南	137	3,815	1,035	11,781			48	1,579	2,205	17,801
	城南	67	2,464	1,000	13,023			91	934	887	16,374
	城東	103	2,533	1,308	16,481			94	1,612	1,573	20,587
	城西	66	2,142	1,273	16,574			49	947	1,173	19,889
	東	61	2,228	1,521	16,245			54	1,471	666	19,139
	北	87	1,446	1,568	20,874			44	687	377	22,697
	城址	71	1,491	1,718	18,448			115	398	340	20,279
第2ブロック	佐野	53	1,408	805	12,759			61	2,203	979	15,146
	塚沢	60	1,230	1,779	21,456			124	2,438	672	23,358
	東部	55	2,459	1,487	20,931			71	2,633	1,174	24,564
	中居	119	3,823	1,737	23,144			46	4,072	2,194	29,161
	矢中	98	1,644	968	13,603			75	1,325	667	15,914
第3ブロック	中川	58	2,496	1,099	16,500			52	504	553	19,549
	浜尻	61	1,485	842	14,264			101	2,026	1,396	17,145
	新高尾	75	5,089	1,144	14,159			125	3,166	1,603	20,851
	北部	53	3,505	1,491	18,467			41	1,410	938	22,910
	六郷	63	2,115	1,647	19,336			46	2,755	1,743	23,194
	長野	53	2,225	1,049	14,065			49	1,956	806	17,096
	箕郷	108	3,289	2,187	32,811			0	0	0	36,100
第4ブロック	豊岡	63	3,105	1,019	13,536			99	1,439	2,461	19,102
	八幡	52	1,880	1,179	15,016			48	1,824	707	17,603
	鼻高	55	3,261	862	20,621			97	1,742	1,222	25,104
	西部	75	2,112	1,145	13,783			204	1,942	2,667	18,562
	倉渕	94	3,523	872	20,705			340	9,922	3,950	28,178
	榛名	84	4,051	1,127	17,142			0	0	0	21,193
第5ブロック	片岡	90	3,749	1,265	15,392			67	1,437	1,134	20,275
	乗附	93	4,995	1,407	16,934			49	2,060	3,846	25,775
	寺尾	65	1,953	1,294	13,361			89	776	664	15,978
	城山	109	2,238	1,274	13,565			159	2,285	1,367	17,170
	南八幡	60	4,553	1,019	11,996			110	2,618	1,559	18,108
第6ブロック	倉賀野	108	6,234	1,851	22,709			282	23,498	6,912	35,855
	岩鼻	126	3,123	1,326	14,807			143	1,891	1,178	19,108
	大類	48	2,096	1,300	16,385			64	1,886	1,408	19,889
	滝川	87	2,891	575	6,616			47	1,674	1,278	10,785
	京ヶ島	47	1,139	1,254	13,943			81	927	985	16,067
	新町	132	2,650	1,767	20,128			0	0	0	22,778
第7ブロック	群馬	99	2,328	2,579	40,716			0	0	0	43,044
	金古	72	2,059	693	7,850	279	6,440	280	1,743	1,173	17,522
	国府	73	2,086	365	5,342	279	6,352	279	1,275	550	14,330
	堤ヶ岡	77	2,040	753	8,427	279	9,077	279	3,494	1,836	21,380
	上郊	92	2,401	466	5,698	281	7,684	260	2,131	750	16,533
	金古南足門	55	1,501	1,093	13,699			240	671	289	15,489
	中央	197	6,997	4,296	93,438						100,435
	合計	3,501	119,852	56,439	776,730	1,118	29,553	4,503	97,351	55,882	982,017

出所)高崎市民館編集委員会「高崎市の公民館 平成20年度事業報告」(2009年)5頁、を参考に作成しています。

注1)「主催した事業」と「他団体の事業」の実施割合に大きな差があります。これは他団体の事業に、主催事業以外の事業一定期利用団体の事業、市の事業で会場として提供一なども含んでいることによります。中には地区運動会など一回の参加人数が非常に多い事業も含まれています。

注2)群馬地区の5地区公民館の主催事業には、子ども支援事業による講座が含まれます。

注3)図書活動事業の利用人数は、貸出人数・読み聞かせに加えてシアター等の参加人数を含みます。



私たちが創る「地域力を育む生涯学習社会」
活動のてびき

平成22年3月

【作成】 高崎市生涯学習推進協議会
(事務局:高崎市教育委員会事務局教育部社会教育課)
〒370-8501 高崎市高松町35番地1
電 話 027-321-1295(直通番号)
ホームページ <http://www.city.takasaki.gunma.jp/>